

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFO・ESP・Cosmic Philosophy
コンタクティー

contactee



地獄の大地震から奇跡の脱出

大地震を前夜予感した私
アダムスキーの大地を訪れて
私のUFO目撃と生き甲斐ある生活
巨大母船、安比高原に出現！
サイコメトリーによる書物の質の感知法

UFOの速度、肉体と魂、真の科学、長寿法

SUMMER
1995

129



CONTENTS <Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness>

〈巻頭言〉大地震とカルマ	1
地獄の大地震から奇跡の脱出	平塚和義 2
大地震を前夜予感した私	西村悠子 6
偉大な教訓となった大地震	田辺健司 7
ロスで見かけた異星人女性	加藤純一 8
アダムスキーの大地を訪れて	日本GAP黎明会有志 11
私のUFO目撃と生き甲斐ある生活	林 寛子 16
「生命の科学」一万回熟読を目指す	加藤知行 19
宇宙哲学と私のUFO体験	藤沼絹子 20
GAP短信	21
科学——SCIENCE	22
巨大母船、安比高原に出現！	秋山和広 24
サイコメトリーによる書物の質の感知法	林 国宣 30
UFOの速度・肉体と魂・真の科学・長寿法	ジョージ・アダムスキー 38
〈予告〉第1回高松支部大会	45
〈投稿欄〉ユークン広場	46
UFO contactee バックナンバー主要記事	48
大盛況！東京月例セミナー300回達成記念行事	49
〈広告〉新アダムスキー全集	50
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2層の図形の内、左側は宇宙の女性原理（麗）、右側は男性原理（剛）を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達を上げた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉

1974年11月17日、デンマークのウィボルフで撮影されたUFO。物体の直径は約20メートルあり、フォースフィールドによって雲のような物質で取り巻かれていた。写真では物体が上昇しているために、雲状物質が下方へ伸びている。

日本GAPへはいりませんか

- 日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究団体です。会員は約1700名、世界でもトップクラスの研究集団として、世界の多くの研究団体や個人研究者と交流を保っています。
- 東京本部と地方の17支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学の研鑽について研究討議を行なっており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。
- 東京では毎月第一日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFO研究と宇宙哲学の大先駆者・久保田八郎会長の解説講義、超能力開発練習その他のプログラムを実施、会員が宇宙的な波動下に研鑽します。品格のある楽しい雰囲気にも満ちています。
- 入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へ入会案内書をハガキでお申し込み下されば、お送りいたします。

〒113 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP ☎03-3651-0958

去る一月一七日早朝五時四六分、兵庫県南部にマグニチュード七・二という同地方未曾有の大地震が発生し、死者五五〇〇人弱という大惨事となった。被災された方々に心から御見舞いを申し上げるとともに、亡くなられた方々に衷心より哀悼の意を表する次第である。

当時、兵庫県内には六七名の日本GAP会員の方が存在しておられたが、その後調査した結果、死亡された方は皆無であったことが判明した。全員助かったのである。まず震災後に大阪支

〈巻頭言〉 大地震とカルマ



部代表の平塚和義氏（兵庫県尼崎市）からいち早く連絡があり、ご無事であったことが確認できたし、その他の方々からも元気なお声を寄せられたので、安堵した。

平塚氏の場合は住居は全滅したけれども、不思議な現象が多発してご一家が奇跡的に脱出できたという。この詳細は本号記事に伝えてあるので参照されたい。その他、各種の資料を見ると奇跡としか言いようのない状態で助かった人が少なくない。

「偶然な現象は何もない。すべては因

果関係で済まる」という法則からすれば、亡くなられた方には全くお気の毒だが、助かる人と、そうでない人との明暗の差を分ける何かの因があると思われる。そこで問題になるのが精神世界の探究である。というのは科学的にみて現段階では地震の予知はまだ絶望的だといわれているからである。

そもそも六七名の方々が助かったというのは、それなりの原因があつたことではないだろうか。それは地域的に運が良かったというような単純なものではないだろう。人間の運命は誰もが自分でつくっているからだ。

平塚氏の場合、その饒伴は単なる偶然ではなく、助かるべき要素が潜在していた結果であろうと、敢えて考えた。実際にはスペース・ピープルが救援されたのか、それとも宇宙哲学の研鑽と日々それを生かす生活態度によって危険を逃れる特殊なカルマが身についたのかは、よくわからないが、編者としては両者の関係があつたと考えた。というのは、平塚氏は平素からアダムスキーの宇宙的哲学を熱意をもつて実践しておられたし、大地震から脱出して立花町へ向かつて行く途中、UFOの出現を目撃されたからである。

これだと思ひ出されるのは、大正二二年の関東大震災の折、横浜市で大惨状を呈しているさなか、伊勢佐木町付近の道慶橋付近で一機の円盤が超低空に降下して、逃げまどう人々を誘導しな

から移動し、七人を安全地帯へ救出したという事実である。

そのうちの一人で主役を演じた大塚敬さんとご婦人は、成田山で一六歳のときから滝に打たれたりして修行を積み、超能力を発揮して多くの人を助けていた。そして印刷所を経営するご主人と右の場所で暮らしていたとき、地獄のカタストロフィーに見舞われたのである。

その円盤は上部が透明なドーム状で、二人の異星人が立っていて、一人は窓から首を出しており、一人は右手で円盤の縁につかまりながら身を乗り出し、左手を伸ばして合図をした。なにせUFOという言葉もない時代で、大塚さんは、てっきり神様の降臨と思つていた。異星人の着ている服はオーソンの服とそっくりだった。後年オーソンの写真を見た大塚さんが、これと全く同じだと言つて驚いたという。

約一時間、円盤型UFOに誘導されたから（一時間も円盤について歩いたとは！）一同が竹藪のある安全地帯へ来ると、円盤は高度を上げて根岸の方へ向へ猛スピードで飛び去った。この円盤グループに同行しなかった人達は危険地帯へ迷い込んで死んだ。

以上の詳細な記事は「UFO・遭遇と真実」（中央アート出版社）と題する編者の拙著に出ているので参照されたい。

世の中には不思議な事があるものだ。

常人の常識をはるかに超えた現象が存在し、しかも人間の死活問題までに関連する因果関係の様相が示されるとなれば、これを無視するわけにはゆかない。こうした問題をすべて火事場の混乱した人間の幻想だ迷信だと片付ける狭量盲目な唯物論者の跳梁は目にあまるものがあるが、しかし学者のすべてがそうではない。たとえば大地震の直前に動物が異常な行動を示す現象は昔から伝えられているが、これでもって地震の予知を研究する学者もいる。

今回の関西大震災でも、震源地の淡路島でネズミが大騒ぎした例があるし、某有名作家の飼犬は前日からぐったりして食欲がなかったという。その他動物の異常な行動に関する多数のデータが数種類の雑誌に出ている。

大地から発する人智を超えた特殊な波動的なものが存在し、人間に感じできないだけで、動物が何かの感覚によって知覚できると考えても不合理ではない。大自然と密着して生きていく動物達は感覚が発達しているからだ。人間の場合も特殊な訓練によってテレパシー、遠隔透視その他、常識を超越した能力を開発することは可能である。唯一障害になるのはこうしたミステリアスな現象や超常現象を非科学的として認めない人が多いことだが、今は精神世界探究の気運が興隆してきたので、今後は新時代が到来するだろう。未来は明るいのだ。

Space People Saved Us from the Great Earthquake?
by Kazuyoshi Hiratsuka (Manager of GAP-Japan Osaka Branch)

「宇宙の意識」とスペース・ピープルに助けられた?

地獄の大地震から奇跡の脱出

●平塚和義

〈日本GAP大阪支部代表〉

筆者・平塚氏は兵庫県尼崎市在住の日本GAP会員。多年、大阪支部代表として活躍された宇宙哲学研究と実践に熱意ある方。去る一月一七日に発生した関西大震災で家が倒壊しながらもご家族四名が奇跡的に脱出して助かった。そのとき多くの不思議な出来事が連続発生して、ご家族の皆さんはいまだに首をかしげているという。以下は同氏の生々しい手記。

物凄い大鳴動の襲来

一九九五年一月一七日午前五時四六分二七秒。それは突然襲ってきた。恐怖のM七・二巨大地震の直撃である。

熟睡していた私達家族四人は、最初にグラツときたときはまだ意識が朦朧としていた。その直後、ガタガタ、ギシギシ、メキメキ、ゴォーと腹の底から響いてくるような不気味な音がしたと思ったら、寝ている体が左右に大きく揺れてフトンから放り出された。

地震だ！ これまでとは違う！
一人おいて隣に寝ていた娘が「こわ

いー」と大声で泣き出したので夢ではないことがわかった。

家全体が大きく波打ち、宙に舞い、グラグラ激しく揺れている。闇の中のほこりっぽい匂いと土煙が充満し、物凄い恐怖心が起こってくる。

家が倒れる！ とっさに娘の上に覆いかぶさり、身をかばう。天井、壁、引き出し等、いろいろな物が上から横から飛んでくる。

あまりにも突然のことなので、まだ何が何だかわからず、悪夢を見ているようだ。

この直後に今回最大のM七・二が襲ってきた！ まず波打つような大きな

横揺れが始まり、突然突き上げるような激しい上下運動に変わる。ゴォー、ゴォー、ゴォー、メキメキメキ、ドンドン、バリバリバリ、ガラースの碎ける音と、もうもうと立ちこめる土煙、グラグラグラ、およそこの世のものとは思えないような大音響が地底から響いてくる。

このときは想像を絶する恐怖感がわきおこって、「もうこれで死ぬ！」と思った。それ以外、何も考える余裕はない。天井が落ちてこないうちに早く早くやんでくれーと必死になって耐えるが、まだ揺れは止まらない。

ゴォーゴォー、ドンドン、ズリズリ、体がだんだん前のめりになって奈落のそこにつき落とされるような感じだ。ものすごく怖い。あー、もうこれで終わりかと思ったとき、「これは助かる！」というかすかな印象がきた。これでわずかに希望がわい

てきたが、まだ揺れは続いている。

これは軽い！

早くやんでくれーと祈るような気持ちでいたとき、今度は「これは軽い！」という二度目の印象がきた。

軽いということは助かることなのか、そう思うといくぶん恐怖感が薄らいてくる。しかしまだグラグラ、ドンドンと大揺れしている。

アレ、私の体に何かが当たった。ついに柱が倒れてきたか、やはりもうダメかと思ったが、心の奥底の私のパワーで跳ね返すようなフィードバックが起こった。部屋の中は暗闇なので、タンスカ鏡台か、何が当たったのかわからないが、まるで段ボールの紙片がそつと右肩をなでるように「軽い」感じがした。

そのうちにやっと揺れが止まった。



▲大震災の翌二月には吹田市民会館で大阪支部の月例セミナーを開催、宇宙哲学を説く平塚氏。

あーよかった、助かった！ 物凄く嬉
しい。

目をあけて立ち上がった。もうもう
と立ちこめる土煙。柱はグチャーと倒
れており、机、タンスも折れ重なって
ひん曲がっている。信じられない光景
に愕然とする。よくも生きていたもの
だ。

すぐ気をとりなおして家内と息子の
名前を大声で呼ぶ。「だいじょうぶ
か？」 息子は私のすぐ横に寝ており、

だいじょうぶなようだ。家内は隣の部
屋から「オルガンの下敷きになってい
る！」と大声で答える。

このぶんならだいじょうぶと思っ
たら、やはり自力で這い出してきた。
フロンをかぶっていたので怪我はな
かったようだ。まずは全員無事だったよ
うで胸をなでおろした。

誰かに見られている！

しかしグズグズしてはおられない。
いつ屋根が落ちてきて下敷きになるか
わからない。一刻も早く外に逃げよう
と物凄く焦る。家内が「懐中電灯、懐
中電灯」と叫んでいるのがすごく印象
的だった。この惨状のなかでも見
つかるはずはないのに、相当、気が動
転しているようだ。

「落ちつけ、落ちつけ、焦るな、焦る
な、だいじょうぶだ」と全員を励まし
ながら玄関のあった方に誘導するが、
あー出られない。ガラス障子と玄関の
ガラス戸がメチャメチャに砕け倒れて
出口をふさいでいる。

閉じ込められたか？ ここでも物凄
い恐怖心がおこってくる。しかしここ
でくじけてはいけない。日頃実践して
いる「宇宙哲学を生かさなければいけ
ない」「私は宇宙哲学を知っている人
間だ」という自信みたいなものがわい
てくる。

バキバキに折れ曲がっている玄関の

ガラス戸を足で蹴飛ばして、前に進む。
パリンパリン、バキバキバキとガラ
スの砕ける音や棧が折れる音を聞くと、
すごく情けない思いがして、思わず泣
きそうになった。

しかしこのとき、
「どこかで誰かに見られている。誰か
に見守られている。誰かに助けられ
た」という感じがした。直感で、スベ
イス・ピープル（異星人）の方だと
解ったので、すごく勇気づけられて、
「よし、見守っていてください。頑張
ります」と心の中でつぶやき、やっと
玄関先まで逃げた。

ふと前を見ると、日頃二階から見下
ろしている隣のマンションの車とフェ
ンスが目の高さに見える。気が動転し
て頭がおかしくなったのかと思ったが、
もう一度よく見ると、確かに目の前に
見える。解った、一階が押しつぶされ
て二階が一階になっているのだ。これ
は凄惨、「一階になっているぞー」と
大声を出す。

さらによく見ると、隣のフェンスに
人間一人がやつと抜け出せるぐらいの
隙間があいている。「やったぞ。ここ
から外に出られる。落ちつけ落ちつけ
焦るな焦るな」と家族を励ましなが
らその隙間によじ登って次々と脱出させ
最後に私が出た。

円盤型UFOが出現！

外は不気味なほど静寂に包まれてい
る。「みんな怪我はないか、もうだい
じょうぶだ、生きておられただけでも
良かった。生きておればまた働いて、
欲しい物も買えるんだ。希望を捨てな
いでいよう」と、無残な姿に変わって
しまったわが家を見て茫然とする家族
を励ます。

空がしらみ始めた。隣町にいる私の
一人住まいの母の安否が気になるので、
見舞いに行く途中、あちこちで火災が
発生して炎と黒煙がもうもうとあがっ
ている。サイレンの音がけたたましく
鳴り響き、人々が右往左往している。

そんな中で、家族を励ましながらし
ばらく行ったとき、一〇階建てのビル
の少し高い所を二機の真っ赤な円盤が
フワフワと飛んで行くのを見つけた。

思わず「円盤だ！」と大声をあげて
家族に知らせる。しかしまだみんなは
興奮しているの、それどころではな
いらしい。無視だ。

「お父さん、こんなとき大きな声で円
盤だなんて騒いで不謹慎だ。早く行く
う」と家内に怒られた。なにが不謹慎
なもんかと思ったが、こんなときの夫
婦ゲンカはやめることにした。しかし
とても残念だ。一〇〇歩ゆずつてこの
場を離れたが、いまだに気になってし
ようがない。後ろ髪を引かれる思いで
やつと母の家に着く。母も家も無事だ
ったのでホッとしたり。

お茶を飲みながらこれまでの事をひ

としきり話し合ううちに、だんだんと
 気持がもどってきた。
 「やっぱり生きていたんだ！」と運命
 の重みを感じる。今回の大地震で私は
 「生きる力。へこたれない力」を学ん
 だ。いつまでもよくよとしていては前
 進はない。多くの物を失ってしまった
 が、宇宙の意識は私たちの味方なのだ。
 古い垢が取れた。さあ、これからまた
 新しい気持ちで頑張ろう。

地震発生時の不思議な体験

1. 娘の上に覆いかぶさって最大の震度
 に耐えていたとき、「これは軽い」と
 という印象があった。私の体に何が当た
 ったかはわからなかったけれども、軽
 くなでるような感じがただけで、怪
 我はなかった。息子も同じ体験をした。
 2. 地震が終わって逃げるとき、家内の
 右手に何かひっかかっている物があっ
 たが、そのまま脱出した。気がつく
 とそれはサイフの入った手揚げ袋だった。
 家内はいまだに不思議がっている。
 3. 家内を外に出すとき、フェンスの隙
 間からずり落としたが、ドスンと落ち
 ずにフワフワツツという感じで軽く着地
 した。家内もとても不思議だったと言
 っている。
 4. 玄関に大きな亀裂がはいり、そこに
 スチール製の柵がはまり込んでいた。
 逃げるときは暗闇の中で、これが障害
 になったが、もしこの柵が倒れていな

かったなら、この亀裂にはまりこんで
 パニックになっていた。とてもうまい
 具合に倒れてくれた。

5. 隣のマンションのフェンスが私の家
 の前で一段低くなっており、新築当時
 からその理由がわからなかった。まる
 で私たちを逃がすために、そのような
 作りになっていたとは？これが最大
 の謎である(写真5)。

6. そのフェンスを乗り越えて下に降り
 たとき、足元に車止めのブロックがも
 う一組余分に置いてあったので、その
 上に足を乗せて降りた。このブロック
 の高さだけ低くなった。これも不思議
 で、私達の降りた所だけに置いてあっ
 た(写真6)。

7. 六軒一棟(二階建て)長屋の屋根瓦
 が全部落ちていなかった。なぜか私の
 住んでいた部屋の上の屋根瓦だけは落
 ちないで、そこに集中して重なってい
 た。この重みで庇がせり上がり、フェ
 ンスの隙間がさらに大きくなって脱出
 しやすくなった(写真4)。

8. 後につぶれた家に入って息子と健康
 保険証を探した。ゴミの山のようにな
 った所をかき分けながら探す、なか
 なか見つからない。あきらめかけたと
 き、二人の目の前にそれがボンと出て
 きた。あれだけ探したのに――。これ
 も最大の謎の一つだ。

9. 次に銀行の印鑑を探したが、これも
 小さいので見つけるのがひと苦労だ。
 最後になにげなくフトンをめくると、

そこに二つの印鑑が仲良く並んでいて
 拾ってくれるのを待っていたかのよう
 だった。上から落ちてきたものが、ど
 うしてフトンの中にもぐり込んだのか、
 全く不思議だ。しかし家内のヘソクリ
 二万円はついに見つからなかった。残
 念!

10. あとでいちばん怖い思いをしたとき
 の様子を思い出していたとき、「私は
 大昔、アトランティス大陸でも同じ恐
 怖の体験をしており、そのときも助か
 っている」という強烈な印象がきた。
 遠い遠い過去世の記憶が蘇ってきたの
 か。印象というものは時間、距離等と
 はいっさい関係ないようだ。ゴオーゴ
 オー、ドンドンという大きな音は
 一生忘れられない。

宇宙の意識を思う

今やつと落ち着きを取り戻して考え
 てみると、「すべての物が私達を守る
 ために働いてくれた」と思われる。そ
 の不思議な力は一体の何なのか。私は
 日頃から宇宙の意識を思い、宇宙の意
 識を信頼する態度で過ごしている。ま
 た毎月の大阪支部月例セミナーでは、
 次の六項目に重点をおいて勉強し、実
 践している。

1. 宇宙の意識を思う心を大切に。
2. 一日一回は宇宙の意識に気づこう。
3. あらゆるものから印象を感じる練習

をしよう。

4. 内部からわきおこるファイリングを
 大切にしよう。

5. 結果(現象)を見ないで、その奥に
 ある生命を見よう。

6. 宇宙の意識を完全に信頼しよう。

宇宙哲学は口先だけで理屈をこねる
 ものではなく、どんな小さな些細な事
 でも実践し、自分のものにして初めて
 実生活に活用できるのです。宇宙の意
 識のことを思えば宇宙の意識が自分を
 思い返してくれます。宇宙の意識を好
 きになれば宇宙の意識も自分を好きに
 なってくれます。また宇宙の意識を信
 頼すると、宇宙の意識もそれに応えて
 くれます。何よりも誰よりも宇宙の意
 識を好きになろうではありませんか。
 好きになれるほど頑張ろうではありませんか。
 せんか。どんなときでも宇宙の意識を
 心の支えとして生きるように努力して
 いきたいと思えます。宇宙の意識さま
 有難う。G・アダムスキー氏、スパー
 ス・ピーブルの皆さん、そして久保田
 先生、有難うございます。

付記 このたびの大震災におきまして
 は義援金で久保田先生をはじめ日本G
 AP東京本部の皆様方、ならびに全国
 の会員の皆様方の温かい御支援を頂き
 まして、まことに有難うございました。
 被災地の会員一同心から御礼を申し上
 げます。



▲右上より写真①6戸1棟の平塚氏の文化住宅アパート。向こうから2戸目が平塚氏宅。ここに見えるのは2階部分。1階は押しつぶされて消滅している。1階の住人1人が死亡した。②真横から見た光景。③グチャグチャにつぶされた玄関先。左上より④平塚氏宅の屋根瓦だけが落下せずに積み重なったので左方のひさしが浮き上がり、フェンスとの隙間が大きく開いて脱出できた。⑤内部から見たひさしとフェンスとの隙間。⑥フェンスを乗り越えてずり降りた着地点。ブロック塀の下に運よく置いてあった車止めのブロックの上に足を乗せて降りた。奥さんは不思議にも何かに支えられているかのように空間をフワフワとゆっくり降りた。

On the Evening before the Great Quake, I had
a Hunch that It would Happen Soon.

by Yuko Nishimura (Member of G.A.P.-Japan Osaka Branch)

大地震を前夜予感した私

●西村悠子 (日本G.A.P大阪支部)

筆者は純粋にして誠実なアタムスキー哲学の実践家で、予知能力を有する人。この驚くべき報告は類例がない。

三月に入りまして、きびしい寒さの中にも明るい陽光がまぶしく、心をなごませてくれます日々でございます。

三月号の『意識の声』を拝受致しまして繰り返し読ませて頂きました。

(編注)『意識の声』というのは日本G.A.P特別維持会員の方に久保田会長が毎月贈っているエッセイの小冊子です。先生が超多忙の中でお書き下さいます『意識の声』で、私は多くの情報を得、新しい知識を与えられてわくわくしたり、勇気づけられたりで、心から感謝申し上げております。本当に有難うございます。

今回の「書物などから発せられる波動に関する事」は特に興味が深く、自分でも素晴らしい内容だと思ふ本は波動が高いように思っております。

しかし先生が書いておられます方は、本は、どうしても読む気になれなかつたのを思い出しております。

大地震を予感して水を貯める

さて、阪神大震災に際しましては、

先生をはじめ東京本部役員の篠氏、遠藤氏より日本G.A.P大阪支部会員にお心暖まるお見舞いと励ましのお言葉を頂き、誠に有難うございました。

大阪支部の月例セミナーにはなんとしても出席致したいと願っております。先生をはじめ物凄いな音と振動で気がつきましたときは、足元の大きな本棚二つがベッドに倒れかかり、ガラスと本が飛び散っておりますが、不思議なくらい恐怖感がなくて、冷静に行動できましたことが嬉しく、あんなに激しい揺れにも建物がちゃんと建っていてくれましたことが何よりも有難く、感謝の心で満たされました。

私の方は物凄いな音と振動で気がつきましたときは、足元の大きな本棚二つがベッドに倒れかかり、ガラスと本が飛び散っておりますが、不思議なくらい恐怖感がなくて、冷静に行動できましたことが嬉しく、あんなに激しい揺れにも建物がちゃんと建っていてくれましたことが何よりも有難く、感謝の心で満たされました。

向かいの裏の家も、そして一ブロック下はずーっと線を引いたように全壊半壊で、一瞬のうちに住むことが出来ない家になっており、わが家が無事だったことが申し訳なく感じられました。その日からライフラインは絶たれませんが、前夜なんとなく「明日もし大地震でもあったら」と思って、浴槽の水を流さなかつたり、浄水機の水をベツトボトルに沢山入れておきましたことで、ずいぶん助かりました。

オレンジ色の光体が出現

震災の翌々日は片付けても片付けても終わる事のない日々で、夜になつてちよつと外へ出てみました。電話がからなくて心配してくれているにちがいない母や娘達に、近くの小さな公園の中の公衆電話で無事を伝えてから、隣の駅前大きなショッピングセンターへ自然に足が向かいました。

平素でも静かな住宅街は灯火もまばらで、人通りもほとんどなく、住民の方々は余震を恐れてじつとしておられるように思え、救急車のサイレンばかりが響いて、帰ろうかなと思ひ、そのとき初めて暗い夜空を見ました。

そのときパツと光ったと思ったら、やはりオレンジ色の光体でした。やっぱり行ってみよう、何か買えるかもしれないと思ひ直して歩き出したら、光体は建物で見え隠れしながらも私の行

く方へ来るというよりも、私がいかに導かれていたようにも思えます。

百貨店やスーパーは人気もあまりなく、欲しい物は何もなくて、手ぶらで帰途につきましたが、帰るもまた途中まで明るく光る光体に見守られて家にとどろつきました。

家を出るときと帰ったときの気持ちの違いは正反対で、上空から「無事だよかったね。苦しいだろうが頑張りなさいよ」と励まして下さったことを心で感じる事が出来て、今もそのときのフイリングが残っています。

今回の震災は日が経つにつれまして災害の凄さが伝わり、まだ困難な避難生活をしておられる方々のことを思いますと心が痛みますが、関西におります私共は、このきびしい体験を通して過去を反省し、新しい気持で進んで行かなければと思っております。

大阪支部の月例セミナーでは全員が体験を発表してお互いの無事を喜びあい、今までもとは違った連帯感がお互いの中に生まれてきたように思えてなりませんでした。

付近の倒壊した家の庭には桜や桃が可愛い花をつけ、水仙が咲き乱れて、あるじのない家でも健在なのが嬉しく、素直に宇宙の叡知を受け入れている植物は素晴らしいなど、通りすがりに眺める日々でございます。

重ねて全国G.A.P会員の皆様には厚く御礼申し上げます。

偉大な教訓となった大震災

● 田辺健司 (日本GAP大阪支部)

このたびの大震災に際し、久保田先生をはじめ東京本部役員の方々、全国支部会員の皆様に絶大なご支援を頂きました。本当に有難うございました。今、人の思いやりの温かさをひしひしと感じております。ユーコン誌の誌面をおかりして心から御礼を申し上げます。幸い私は地震で全く被害を受けず、すみませんが、多くの事を学ぶ機会を与えて頂きました。そのことを少し書かせて頂きたいと思えます。

生きる力、へこたれない力

震災から三日後にやっと大阪支部代表の平塚さんと連絡がとれましたが、ご自宅が倒壊したとので、その週の土曜日にお見舞いかたがた、何かお手伝いすることがあればと、吉川美香さんと二人でおうかがいしました。

JR立花駅で平塚さんを待つている間、どんな言葉をかけたらいのかなど暗い気持ちになっていたのですが、平塚さんはいつもと変わらない明るい表情で私達を迎えて下さいました。私はホッとした気持ちになりました。

早速現場へ向かい、そこでさまざまな奇跡的な出来事のお話をうかがいました。

平塚さんは、「今回のことで自分は『生きる力、へこたれない力』を学んだ」と自信に満ちあふれて言われました。

それは決して現状に負けまいと気力を振りしほって言われているのではありません、宇宙の意識を感じる事によって得られる、宇宙の意識への穏やかで力強い信頼だと感じる事ができました。その言葉を聞いたとき、不安や心配といったものが平塚さんから全く感じられず、私の内部からも強い力が湧いてくるのでした。

大安心の境地はこれだ

大阪へ帰宅してから自分の内部で何かが変わったと感じていたので、何が変わったのかはわかりませんでした。二三日たったから遠藤さんの書かれた『あなたの運を開くオーラ透視法』を読んでいるとき、「オーラを見ることは、他の惑星の様子をこちらの

惑星の人が『どれどれ元気に過ごしていますか』と見ることと同じだという所を読んだ瞬間、これだ」と感じました。

人やその他万物を激励したり祝福したりするということは、りきんでやるのではなく、リラックスして気楽に行なうことであって、私にとってはむしろなげなく相手を思っただけの思いやりを発揮するときに、宇宙の意識の力が最も自然に働くのだということを確認しました(もしかすると間違っているかもしれないが、今はそう感じています)。

他人や自分の体が元気がないとき、それに対して「どうしたんや」と声をかけてあげる気持と、その言葉をかけることによって相手の中にも自分の中

にも何か温かい気持が湧いてくるのです。それが宇宙の意識ではないかと思えるようになりました。

それからというものは不安な気持ちは少なくなり、物事もスムーズに運んでいくように感じます。

そうそう、これが久保田先生の言われる『大安心の境地』であって、宇宙の意識を信頼するということなのだ。ほんの少しわかりかけた気がします。今回の大震災では実に大きなレッスンを学ばせて頂きました。このことが他の会員の皆様に少しでもお役にたつばと思っています。

では私たち大阪支部も従来どおりに頑張ります。皆様もお元気でござい下さい。

関西大震災

大阪支部救援募金活動展開

去る1月17日に発生した関西大震災により被災された日本GAP会員の方々を救援するために日本GAP本部は義援金の募金運動を展開しています。篤志の方は下記へ直接に現金書留でご送金下されば幸いに存じます。

〒661 兵庫県尼崎市立花町
1丁目9-26 自電/マンション203号
(大阪支部代表) 平塚和義
(義援金の処理については代表に一任します)

—日本GAP—

昨年二月三日から五日までの六日間、日本GAPの若手会員で結成する黎明会メンバーの内一名は、久保田会長同行のもとに米カリフォルニア州ロサンゼルスを皮切りに、バークレーのサンタモニカとしてデザートセンターのアダムスキーのコンタクト地点、パロマー山のA氏の住居跡、パロマー天文台等を視察し、四日に再度ロスへ引き返して、最後にユニバーサル・スタジオを周遊した。

このスタジオ内の豪華な広場で筆者・加藤純一氏は異星人と思われる特徴のある女性に遭遇した。氏は常人とは異なるテレパシツクな感覚を持ち、都内でもしばしば特殊なフィリリングとともにUFOを目撃する特異なカルマをもつ青年。以下は氏の興味深い手記。

今回、黎明会主催のデザートセンターとパロマー山行き旅行は、スケージュールの毎日がジョージ・アダムスキー氏の足跡をたどるうえで大変重要な内容ばかりでした。したがってこの旅行は通常の観光とは全く違う独自の高揚感を伴ったものとなりました。

またこのたびはGAP活動の激務をぬってガイド役を引き受けて下さった久保田先生のお力添えがなければ決して成功しなかったでしょう。そして終始、アダムスキー問題に関する正確か

つ丁寧なご説明により、我々一行は宇宙的な知識を伝授して頂くことが出来ました。まるでスペース・ピープルの方々が地球人を導いて下さっているかのようにでした。

実際、この旅行中でブラザーズ（異星人）の方々が近くにいるという印象が絶えずありましたが、観光最後の一月三日、ロサンゼルスで、ついに私はスペース・ピープルの一人と思われる女性に何度か会ったのです。

この件に関しては書くか書くまいかと色々悩んだのですが、その後の一連のUFO目撃、旅行前後の一連のUFO目撃、旅行前後の不思議な予知夢、さらにアダムスキー氏のスペース・ブラザーズ（友好的な異星人）に関する記述の再発見等によって確信をゆるぎないものとなりましたので、ここに報告させて頂くことにしました。

まづ高度なフィリリングが おのづから

この体験は私のUFO目撃パターンと同様に、あるフィリリングに導かれてやってきます。それらはまるで一本の映画の断片を見ているかのように、深い所で繋がっているかのようにです。

また、この宇宙的体験をつなぐ日常生活で発する想念等も、重要なエッセンスとして役立っているとも言えます。UFO目撃パターンで最も多いのは、(1)突然高揚したフィリリングに包まれ

る。

(2)上空が気になり出す。

(3)そして目撃。

という順序でやってくるパターンです。

そして今回の旅行中、ユニバーサル・スタジオで例の女性に出会ったときも、前述の高揚したフィリリングを感じていましたので、私はつきりUFOが出現するものとばかり思って、上空を見続けていました。

第一回目の遭遇

さて、その日の朝はあいにくの小雨でしたが、昼過ぎに到着すると青空が見え始めました。久保田先生の提案でスタジオ内を周遊するトラムのツアーへ参加するために、一行は並んで順番が来るのを待っていました。

その間に私と通訳の熊谷三千代さんはレンタカーの問い合わせをするために公衆電話を探しに行きましたが、このときすでに異星人らしい女性を見えています。時間は一時半ころでした。そして一瞬その姿を見て直感的に「この女性は異星人だ！」と思ったことを強烈に覚えています。

トラム・ツアー終了後、その方は見当たりませんでした。売店に向かう直前にその方が我々のベンチに座っているのを見つけたので、私はドキドキしていました。

ベンチは三〜四人掛けでしたが、彼女は右端にいて、一人分あけて二人の体型のよい女性が座っていました。

彼女は何をすることもなく、ただ自分の膝もとを見えています。そしてどうやら私がジッと見つめていることにも気づいているようでした。私はすぐ近くにいて、ほとんど真正面にいましたので、その美しい容貌を観察することが出来ました。

一見、お金持ちの中年女性のように見えたが、その姿を見ているうちに、「これは普通の人とは違うぞ！」という感じがわきおこってきたのです。肌は透き通るように白く、シミ、ホクロなどはいつさいありません。私の中で「この人だよ！ この女性だよ！」と叫んでいます。しかし私はそれを確認する方法がありませんでしたので先生が待つ売店へと行きました。

その後、コーヒを飲んだ後、私は岡田君に誘われてETのグッズ売場へ行くときにも、あの女性はまだベンチに座っていました。私は夢中で歩いて行く岡田君を尻目に、なぜかその女性の方へスーツと近寄ってしまいました。そして心中で「宇宙の方ですか？」という質問をテレパシーで発しましたが回答はありません。

しかしテレパシーの受信能力のない私は、もし相手が答えているのに気づかなかつたらマズイなあとと思って、パツが悪くなりましたので、岡田君のも



◀ 入口のキップ売場。



◀ 場内を歩くメンバー達。



◀ ترامで周遊。



◀ 映画用の野外セット。



◀ スタントマンの熱演。

●ユニバーサル・スタジオにて
撮影/久保田八郎

とへ行きました。

このときは手を伸ばせば届く距離にいましたが、彼女は決して目を合わせることとはなく、ただ隣元においてある何かを折りたたんだりしているだけでした。

私は離れる間に「宇宙の方だということがわかるようなサインがあればよいのかなあ」と思ったことを覚えていません。これは二時頃のことです。

二度目の出会いで確信！

それでも確信をもつことが出来なかった私ですが、三時頃レンタカー返却のため、津田、沖山、熊谷、私の四人は別行動をとって出口へ向かいました。三回目の出会いは確信へと変わりました。出口が近づくと高揚したフ

イーリングが強くなってきます。私はUFOが出現するのだと思い、上空を見上げながら歩いていましたが、一向に出現しません。

途中の売店でなぜかオニギリが売られていましたので、それを買ってカフェテラスで食べることにしたのですが、フイーリングはやみません。

すると私が座っている位置の真正面に別なレストランがあり、なんと、そこからさきほどの女性がタイミングを図ったように出て来たのです！

その方は一瞬、私の目をジッと見てから視線をそらしました。私は座りながら腰を抜かした状態になりました。私の中で「この人だ！ この女性だよ！」という声が何度も繰り返されています。その瞳は夢の中に出て下さるブラザーズと同じで鋭く、気品

のある力強い瞳をしています。ちょうどそのとき、他の三人がやってきたので、私は思わず「あの女性はスペース・ピープルの方だよ！」と言

ってしまいました。私にはなんだかもう疑う余地すらなくなっていました。

ブラザーズを見分ける方法

このとき私に語らせたものは何だったのでしょうか。そして確信させたものは一体何だったのでしょうか。

今、私の手元には新アダムスキー全集第五巻があります。その中で第一章第五章の「ブラザーズを見分ける方法」(二〇二頁)と題する文を再発見したことに私はさらに確信を深めることになりました。(編注)ブラザーズというのはスペース・ブラザーズ

の略称で、友好的な異星人の意味。アダムスキーの造語

この中で、アダムスキーが出会った土星人が語った、ブラザーズの正体が体験した内容と一致するからです。土星人が語るには、別な惑星から来た人々の正体に気づくためのたった一つの方法は、お互いの「意識を融合させること」であるということです。

私は久保田先生が常に語っておられる「テレパシクになるべきだ」という言葉に、宇宙的な深さと重みを感じています。実はロサンジェルスでのあの日、別な場所で、全く同じあのスペース・ピープルの女性に久保田先生も気づいて出会っておられたのです。この事実を知ったとき、私は不覚にも喜びのあまり涙をこぼしそうになりました

た。先生も楽しそうにその状況を語って下さいました。

これらの体験から私が学んだ事は次の二点です。

(1)スペース・ビープルの方々は、我々GAPのメンバーを常に見守っている。

(2)スペース・ビープルの存在は、こちら側が「意識の融合」という方法を応用しなければ、決してその正体を感知することは出来ない。

そして久保田先生が言われる「テレパシクにならなさい」というこの言葉をかみしめて、私はこれからも地球社会のために出来る限り奉仕してゆきたいと思っております。

UFOが出現！

帰国した一月五日の夜九時三十分から四〇分の間に、東京都江戸川区の久保田先生のご自宅まで津田氏と一緒に荷物を運んで行ったとき、付近に一機の円盤型UFOと思われる物体が出現して飛んで行くのを、旅行中使用したビデオカメラで撮りました。これも事前にフィーリングでわかっていましたから撮影することが出来ました。久保田先生は本当にスペース・ビープルから注目されているという事実の一つのエピソードになりますね。

私もその後、一月だけですぐに三回ほどUFOを目撃しています。これか

らも不屈の信念をもって頑張りますので、よろしくご指導下さい。

久保田付記 ユニバーサル・スタジオ

というのは映画の都ハリウッドの広大な敷地にユニバーサル映画が撮影に使用する屋内と野外セットを見学者用に公開した施設で大遊園地の観を呈している。トラムという簡単な電車みたいな乗物に乗って場内を周遊する。ディズニールランドと違う点は、映画のセットやカラクリを見せるといふ特徴にあるので、大人でもすごく愉快になる。

私はここへ何度も来ているので珍しくはないが、いつ来ても夢と希望に満ちた雰囲気を感じて実に楽しい。

切符売場から場内に入って、トラムの方へ行くために場内の繁華街を歩いていたら、左側の大きな売店の入口の横の低い段に腰を降ろしている女性が目についた。群衆で充滿している場所なのに、なぜかそれに注意が集中した。真っ赤なコートを着て黒のスパッツを着け、いまだきアメリカでは見当たらないツバの広いキャノチェ型の真っ赤な帽子をかぶり、金髪が長く垂れ下がっている凄いな美人で、中年に見える白人タイプだ。誰もがラフな格好をしている場所であ群衆のスタイルだから大いに目立つ。ホコリっぽいこの大遊園地にこんな格好で来るとは！しかも、うつむいて、膝の上に何かを置いて



▲加藤純一氏が帰国直後に江戸川区の久保田宅の外からビデオカメラで撮ったUFO。

て手でめくっているように見えた。

アメリカでは立派な服装をしている美貌の白人女性はザラにいるからその点は気にならないが、この人は違うという印象が強くなり起きた。私もこの日はユニバーサル・スタジオで誰かに出会うという予感があったので当然だと思っていた。異星人が地球に沢山

いる事実をよく知っているからだ。

アダムスキーの言う波動による印象感受は非常に重要である。こうした感受力なら加藤君が抜群だが、この感覚は自己訓練で誰でも開発できる。そのためには新アダムスキー全集第五巻一〇二〜六頁か、第二巻と第三巻を熟読して練習されるとよいだろう。

日本GAP黎明会アメリカツアー報告 アダムスキーの大地を訪れて

昨年の年末から正月休みを利用して、日本GAPの若手会員で結成する黎明会のメンバー一名は、久保田会長同行のもと、アダムスキーのコンタクト地点である砂漠地帯のデザートセンター、住居跡の残るパロマー山のパロマー・ガーデンズその他を見学、歓喜に満ちた六日間の旅を終えて一月五日に全員無事帰国した。以下は参加者の声。

パロマー山で UFOを目撃

大根田匡史

今回のアメリカ旅行は初めての海外旅行だったのですが、事前に久保田先生から詳細なガイダンスを受けていたので安心していました。

旅行を通してさまざまなことを学びましたが、文化の習慣などは体験しないとわからないことが多いように感じました。そのなかでも言葉や食事などには印象深いものがありました。英語の勉強はしていたつもりでしたが、あらためて英語力のなさを実感しました。

アメリカという国は本当に雄大だと思いましたが、その中のほんの一部だけでもレンタカーで移動したことで、さまざまな光景を見ることができました。ロサンジエルの町並み、パームスプリングズの夕焼け、どこまでも続くフリーウェイ、ユニバーサル・スタジオの人々、パロマー・ガーデンズの檜の樹木達、そしてあのデザートセンターの空と大地。その他の美しい風景など。

特にデザートセンターの波動は素晴らしく、短時間でしたが、あの場所で大宇宙瞑想を行なうて、ここがコンタクト地点に選ばれた理由がわかったような気がしました。その他にもスカウトシップや、アダムスキー師とオーソンとの出会いのころなど、本当にさまざまな印象がやってきました。

でも私これがこれほどの印象を感じるところができたのは、私個人の力ではなく、参加して下さった久保田先生と友人達のお蔭です。特に飛行機が気流の乱れたところを飛行しているときに、ひそかに先生がイメージ法を実践されているところを見て、とても感動しました。本当にすべてが素晴らしい旅行でした。

ところで、一月二日の午前10時30

分から11時20分までの間、パロマー山付近を車で走っていると、UFOが付近にいたとの印象が強くなってきました。加藤さんも同じ印象をもっていたようですよ。

その感覚がピークに達したと思われるときに、進行方向に向かって右側の山並みの上に、風船のような白い物体が飛行しているのが見えました。私にははっきりと見えていたのですが、不思議なことに他の同乗者には見えなかったようです。

目撃は10秒ないし20秒程度で、あとは山のかげになって隠れてしまいました。

ユニバーサル・スタジオで見た人

沖山 洋

初めにこの旅行に同行下さいました久保田先生にお礼を申し上げたいと思います。この充実した旅行は先生のご同行なしでは実現できなかったように思いますが、本当にありがとうございました。

私は海外旅行は今回が初めてでして、飛行機に乗るのも初めてという全くの未経験者だったのですが、それにもかかわらずアメリカへ行って、いきなり車の運転を任されたものですから、最初は戸惑ってしまい、日本とは習慣や規則の違うアメリカで、左ハンドルの車の運転にすぐく神経を集中しました。ともすれば、うっかりして左へ寄りそうになるのを必死にならして右へもどすのに苦労しました。

デザートセンターのコンタクト地点や、パロマー・ガーデンズに実際に行つて立つてみますと、過去にここで練り広げられたアダムスキーやスペース・ブラザーズの活動が心に浮かんでくるようでした。アダムスキー全集で読んだり写真で見たりして自分の中でイメージを描いていたものと、実際にそこへ行って見て感じたものとはかなり差があり、体験することの重要性をあらためて確認できたように思います。

旅行の前半に加藤さんが、「ユニバーサル・スタジオでスペース・ビープルに会えるかもしれない」と言われていました。ここへは最終日に行つたのですが、途中から加藤さん、津田さん、熊谷さんと私はレンタカーを返しにみんなと別れました。

出口に向かっている途中で、加藤さんが「円盤が出るかもしれない」と言つて、しきりに空を気にしていました。

おながが空いたということで出口の近くの店でオニギリを買い、付近に沢山あるテーブルの一つについた後、突然加藤さんが「あれはスペース・ビープルの一人だ」と言われたので、ふと見ると、そこに白人タイプの女性が立っていました。外見は普通の白人と同じですが、感じが全く異なるようでした。言葉で表現するのは難しいのですが、しいて言えば、吸い込まれるようなフィーリングがしました。

加藤さんは三回ぐらいい見ていたそうですが、久保田先生もこの方を見ていらっしやうたことでした。

地球上で最高に 素敵な場所

福井貴子

デザートセンター行きは私にとって二度目の旅行となりましたが、初回とはまた違ったものを得たような気がします。二度目が幸運にも実現し、この二本の足で踏みしめること、風を感じ、自分なりに波動を感じることができましたことを感謝しています。

デザートセンターへ行くことができたチャンスは何があっても無駄にしたいくないと心から思います。行きたくてもなかなか行けない方が沢山いらっしゃるのですから。

私達の地球上にはこんな素敵な場所がやっぱりあるのです。私は声を大にして言いたい。「百聞は一見にしかず」と。ぜひ一度行ってみて下さい。大地に触って下さい。毎年少しずつまわりの地形が変化していますが、なぜここがコンタクト地点になったのか、体中で感じられるでしょう。

パロマー・ガーデンズ、パロマー天文台も、何度訪れても美しいところで飽きません。パロマー・ガーデンズは緑多い、なぜか懐かしい感じがする場所。天文台も大変立派で、青空に映えるドームは絵のように美しい。アダムスキー氏が歩いた道を踏みしめているかもしれないと思いつつ、ワクワクしながら歩いてみました。パロマ

ー・ガーデンズでの昼食も忘れられませんでした。

今回の旅行は先生のご説明をお聞きできるという特典ももちろんのこと、同世代の仲間と共に一年前から計画されていたものだけに、感動的なものとなり、新しい発見と目標と生き方を考えさせてくれるものとなりました。心の中でのろんなエピソードとともに生き続けることでしょう。

感激の連続の旅

熊谷美千代

先生には旅行中はデザートセンターやパロマー・ガーデンズでの説明や写真撮影など大変お世話になりました。

デザートセンターでは天候が曇りましたが、何度も写真を見て見覚えのある山並み、すぐ近くに見える円盤の着陸地点、そして自分の立っているところが、あの金星人オーソン氏が足型をつけた場所——と、何もかもが感激の連続でした。その日は少し前に雨が降ったらしく、土が少し湿っていて、歩くと足跡がついたので、「あの会見のときも、こんな土だったのだろうか」と感慨深く思ったのを覚えていません。

またパロマー・ガーデンズでは、アダムスキーがコンクリートの中に描いた円盤の絵や石積み、そしてアダムスキーの生活を見守っていたであろう樫の木を見た

ときは、とても感動しました。私にはまだ樹木と一体化のフィリングは起こりませんが、その木を抱いて目を閉じると、アダムスキーが生活していた頃の光景が見えるのではないかと思います、とても暖かい感じがしました。

そして忘れられない思い出になったのは、旅行四日目、ユバール・スタジオでスペース・ピープルらしき女性を自撃できたことです。

その日、レンタカーを返却するために加藤さん、津田さん、沖山さん、私の四人はユバール・スタジオの見学を早めに切り上げたのですが、少し休んでから行こうと四人で店の外のテーブルを囲んで座ると、加藤さんが突然「あの人、スペース・ピープルだ！」と言うのです。

その女性を見ると、横顔しか見えませんでした。赤いツバつきの帽子に赤いコート、黒のスバツという服装で、モデルのように洗練された感じでした。

私はただ「あの人がスペース・ピープルなのか」とずっと見ていたのですが、その日の夜、加藤さんが先生にその話をされたときに、先生もその女性に気づいており、間違いないだろうと聞かされたときには、嬉しくてとても興奮してしまいました。

新年早々デザートセンターへ行けただけでなく、こんな自撃を皆と一緒にできるなんて、なんてラッキーだったのだろうと思えました。

多少ハプニングもありましたが、気の合う仲間と一緒に過ごすこと、久保田先生に同行して頂いたことで、本当に楽しい素晴らしい旅でした。またこのような機会がありましたら、ぜひ参加したいと思います。

宇宙時代の到来を予感

西川 太

昨年末から正月にかけてのデザートセンター旅行では久保田先生に同行して頂き、厚く御礼を申し上げます。

この旅行が私にとって初めての海外旅行ということもあって、大きな期待と一抹の不安をかかえて成田からの出発でしたが、先生の懇切丁寧な御指導のおかげで快適な旅となりました。

デザートセンターでのひとときは、このうえない静けさと穏やかな波動に満ちたもので、オーソン氏とアダムスキー氏の会見場面を想像すると、なんだか荘厳な気分になり、真の宇宙時代の到来を予感せずにはいられません。コンタクト地点での先生との記念写真は生涯の宝物であるといえます。

ロサンジェルスによく整理された町並み、カリフォルニアの雄大な景色、アダムスキーの住居跡やパロマー山の反射望遠鏡の圧倒的な迫力など、大いに感動し、またいろいろと勉強になった旅行でした。このような機会にめぐりあえたことに深く感

●ジョージ・アダムスキーのコンタクト地点

米カリフォルニア州デザートセンターの砂漠地帯。パーカー街道より500mの奥地。



◁1952年11月20日、ジョージ・アダムスキーは6人の同行者が目撃するなかで、この場所の少し後方に着陸した金星のスカウトシップ（円盤型小型宇宙船）から降り立った金星人と会見してテレパシーとジェスチャーで約1時間話し合った。詳細は新アダムスキー全集第1巻『第2惑星からの地球訪問者』（中央一出版社）に出ている。

左の写真は金星人が靴の底についていた図形の跡を砂地の地面に残したので、それをジョージ・ウィリアムソンが、しゃがみ込んで石膏にとっている光景(右端)。見ているのは、左からウィリアムソン夫人のベティー、アルフレッド・ベイリー、ルーシー・マクギニス、アリス・ウェルズ。この写真はベイリー氏の夫人ベティーが6×6判2眼レフで撮影した。

▼下の写真は左上のコンタクト地点を1995年1月1日、久保田八郎が撮影。この場所は1989年1月21日、左上の写真を手にして探索していた久保田が発見した。左右の丘や遠方の山脈の輪郭が完全に一致している。右手前にある岩も同じ。

撮影/久保田八郎 (ホースマン985/トプコール90mm/フジカラー100)



アダムスキー全集の熟読を

高山弘美

先日のデザートセンター行きでは大変お世話さまになり、ありがとうございました。本当に楽しかったです！

何よりもいちばん良かったのは、実際にコンタクト地点やパロマー山頂などに行ってみるにより、アダムスキー全集に書いてあることが、物語ではなく現実の事実としてくつきりと体感されることです。これは行く前と行った後の一番の違いです。もうこれだけで十分にアメリカまで出かけた意味があると思います。UFOの出現よりも以前に、まず私はもつとアダムスキー全集を熟読するということを考えさせられて、とても良い機会になったと思います。

個人的にはカリフォルニア州にとっても強くひかれていたので、何かカルマがあるのかなと思っていたのですが、初めて行ってみても心落ち着く場所でした。みんなで行動しているときには本当に修学旅行のように楽しくて、自分が中学生ぐらいになつたような気がして、楽しくて仕方がないという感じでした。

それから少し驚いたのは、パロマー・ガードンズのアダムスキーが住んでいた家のまわりの二股の木が沢山ある感じは、私の実家の近くの松林にそっくりなので



▲撮影中の久保田会長。撮影/加藤純一

す！ 以前に主人が悩んでいたときに加藤さんに相談したところ、加藤さんは遠隔透視で「高山さんの家の近くに二股の木がある場所が見えるんだけど、そこがとでもリラックスできる場所だよ」と教えてくれたことがあり、そこがまさにアダムスキーの住居跡のまわりにそっくりな松林でした。実際そこは、子供の頃から近所の人達すべての憩いの場所でした。そんなことも含めて、先日の旅行は実家の近くにいるような、くつろいだ波動を感じられる場所が沢山ありました。

今後は、宇宙的なことも考えつつ、アダムスキー全集をよく読んで、今年も前進していけるように心がけて努力したいと思っています。

今度の旅行はあらゆる意味で私の人生観を根本から変えてしまうほどの素晴らしいものでした。また機会があれば、こうした楽しい旅行が久保田先生のご指導のもとに実現することを願っています。

心のふるさと

久保田八郎

昨年、黎明会幹事の加藤純一君その他から自主的なアメリカツアーの計画を聞いたとき、ただの物見遊山ではなくてアダムスキー関係の遺跡見学ならば、私が同行して案内や説明をする必要があるだろうし、改めてデザートセンターの良い写真も撮っておきたいと思ったので、一緒に行くことを決断したら一同は飛び上がって喜んだ。こうして昨年末に勇躍成田をあとにした。

私自身はデザートセンターやパロマー山には二〇回近く行っているのですが、わが家の庭みたいに熟知しているが、いつ行っても心のやすらぎを覚える懐かしい場所である。月並みな表現だが心のふるさとと言うべきだろう。

周知のごとくデザートセンターのコンタクト地点については、新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）に事実が詳述してあるので、ここでは省略しよう。

アダムスキー問題は物凄い事実であり、それを米政府が極秘事項としてひた隠しにしているということである。

しかも、デザートセンターの砂漠地帯を調査するたびに感じるのは、米空軍は明らかにこのコンタクト地点をマークしているということである。それは我々がここを訪れるたびに必ず上空にUFOが出現するので、それを狙って米空軍の多数の戦闘機がスタランブルをかける状況からもわかるのだ。ただし今回は空が曇っており、UFOは見られなかった。

またここへ来るたびになにかしら謎めいた物が発見される。一九八八年一月にグループで来たときにはコンタクト地点が不明なために、現在の正確な場所から一キロ以上離れた岩山を探索したのだが、そのとき低い丘の岩盤に長さ約三メートルの見事な曲線が刻みつけられているのを発見した。こんな奥地で、誰がどんな方法で、何のために、と考えた結果、私達がそこへ来ることを事前に察知したスペース・ピープルが前夜円盤でタッチダウンして回転しながらフランジの縁で曲線を刻みつけたのではないかという結論に達した。

旅行団のメンバーは実によく協力して私を援助してくれた。そんなに老人扱いしなくてもいいよと言いたくなるほど手分けして私の大荷物を持ち、身軽にさせてくれたので大助かりした。要所で私が説明する際にも、加藤君の命令一下、全員がサッと集合する敏速な動作は見事



▲デザートセンターのコンタクト地点で説明する
久保田会長（前方中央） 撮影/加藤純一

なものだった。一一名中、海外旅行は初めてという人が八名もいたが、四感に惑わされて浮かれ騒ぐこともなく、礼儀正しくして私にもよく挨拶をし、整然とした行動をとっていた。

若人達のマナーが頹^{たは}廃^はしてゆくこの日本で、日本GAPというささやかな団体の一部にこのような若手男女の会員達が存在することを特記したい。

今後もデザートセンターを何度も訪れて、この大地の波動を吸収し、大宇宙との一体化を思念して、遥かなる惑星に思いを馳せたいものである。

●パロマー・ガーデンズ

ジョージ・アダムスキーは1950年代に、パロマー山腹の台地をパロマー・ガーデンズと名づけて弟子達とともに住んだ。グループの生活資金を捻出するために弟子のアリス・ウェルズ女史がここでレストランを経営していた。下の写真はそのレストランの跡地で、アダムスキーがここを去ったときに、門下生のアメリカン・インディアンの婦人がこの土地を買い取って、コンクリートをしき、記念として永久に保存する処置を講じた。アダムスキーの住宅はこのすぐ右に隣接して建てられていたが、現在この台地はキャンプ・グラウンドとして経営されており、管理人の家が元アダムスキーの住居跡に建てられている。写真中の右奥の小屋はわかしアダムスキーが建てたものだが、木造の部分は後に改造された。下半分の石積みはアダムスキーが自分で築いたもの。

- 前列左より高山弘美、植木弘子、久保田会長、福井貴子、熊谷美千代。
 - 後列左より近藤祐一郎、岡田茂、西川太、津田篤孝、大曾根匡史、冲山洋。
- 撮影/久保田八郎（セルフタイマー使用）



だことは次のとおりです。

①自分の想念を客観的に眺めること。

②自分からどんな宇宙の想念を
ふやしてゆくこと。

③自分を絶対に諦めないこと。

右の②にもつながることですが、新しい建設的な習慣をみずからどんなに確立していくことは、特に徹底的に教えもつたという気持がします。新しい習慣の確立とは、新しい物の見方、新しい考え方を自分の中にどんなに作っていく、そして内部の宇宙の意識からくる良いアイデアや考えに気づいて、それをどんな行動に移すことです。

こうすることによって私達は内部の宇宙の意識を現わすこと（一体化）ができるのだと思います。

●一月一〇日。久しぶりに姉が家に帰ってきて、母と姉と私の三人がそろいました。姉は私と話をしたかったのですが、私は出かけようと思って外へ出ますと、真っ白のUFOが飛んできました。私は母と姉にもUFOを見せようと思って、急いで家に入りましたが、UFOは雲の中に入ってしまいました。

このことから、UFOは母や姉に見せに来たのではないことに気がつきました。「姉妹で仲よくしなさいよ」と言われたような気がしました。

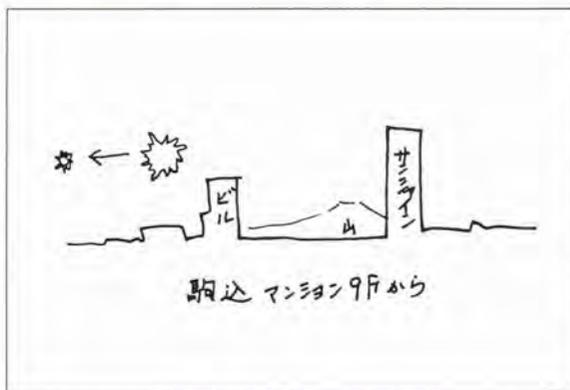
●一二月。一二月の中頃から、万物との一体感、宇宙の創造主への感謝の気持、自分はこの地球の一部分であると

いう想念や感情が自然にわきおこるようになりました。

すると、そういう想念を起こしただけでUFOが出現するようになりました。「いつも自分の中にそういう想念を持ち続けていなさい」と教えてくれたのだと思います。

●一九九四年一月二日。姉と初めて一緒にUFOを見る。姉に今まで以上の親密さを感じる。

●一月三日。駒込マンション九階の窓から、姉と一緒にUFOを五時間にわたって目撃しました。最初サンシャインビルの横に出現してから、左の空へゆつくり移動し、建物Aの赤い点滅とともにUFOも赤色になり、五時間に



わたって点滅していました。

こんなことは初めてなので、スペース・ビールの無限の愛を感じました。このUFO出現にはさまざまな意味が含まれていると思いました。

①愛とは何かということについて、スペース・ビールは長時間出現することで教えてくれた。

②姉と二人でUFOの問題について活動をしていくことに対する祝福。

③「この先あなた達が活動していくなかで、いつも私達（スペース・ビール）は共にいますよ」と示してくれた。

●一月七日。一月にはいると将来の不安や目先のことで心が満たされてしまいがちです。すると学校の窓から同じ行動をくり返すUFOが出現するのを見るようになりました。

私はこのUFOを見ることによって、どうか自分の中に宇宙的な想念を持つことができるようになった。想念をコントロールすることの重要性を改めて感じました。

●一月八日。自分が生きていることや今ここに存在していることにたいして感謝の気持ちわきおこります。するとUFOが出現します。

●一月十四日。学校（上野）の七階のトイレの窓から見たUFOは、一月七日のときと同じで、想念を観察してコントロールしなさいということを示していたと思います。

●一月十五日。一日中スペース・ビールのことを考えていました。夕方四時頃、陸橋を歩いていたら、突然「誰かに見られている」という強烈な印象がきたので、あたりをキョロキョロ見回すと、真っ白の細長いUFOがジッと空中に停止していました。見かけ上一センチメートルぐらいです。

●一月三〇日。この日は、人間とは固定化されたものではなく、日々変化するものであるということ、私達がこうして成長するにしたがつて、宇宙の法則のより深い理解を得ることができるといことがわかりました。このことを理解すると、自分が今まで自分だと思っていた「自分」などはないことに気がつきました。すると自己の内部から自分がなくなってしまうという大きな不安感が起こったのです。

しかしこの直後に突然、目の前に過去の映像が現われました。そしてこれら一連のことに応答するかのよう空中にいつせいに五機のUFOが出現しました。

●一月三十一日。この日は早朝から母と口ゲンカをしてしまいました。するとケンカをしている最中に窓の外にUFOが飛んで来て、ピタリと止まったのです。私は驚いて母にUFOのことを知らせました。そして母がUFOを見ようと窓に近寄ると、UFOはいったん右に移動して消えてしまいました。私はこのUFO出現がきっかけとな

って、どうしてトラブル(ケンカ)が起きたのかを考えてみました。

そこでまず母の立場になってそのことを考えてみると、母の言い分や、私にどうしてほしいのかが少しは理解できたのです。そこでハッとしました。トラブルとは個人がそれぞれの主義、主張、言いかえれば個人的意見を持っているために起こるものだということがわかったのです。

ですから、何か問題と思われるようなことが起こったときは、自分というものを含めないで物事を考えてみなければいけないということがわかりました。つまり個人的意見を捨てない限り、トラブルは解決しないということです。このことがわかってから、私はすっかり母と仲良く半日を過ごすことができました。すると四時半にUFOがまた朝と同じ場所に飛んできました。

それから夕方には母と近くの公園に散歩に行きました。その散歩の最中に突然、自分の内部から次のような印象がわきおこったのです。

「今生で母とともに今この場所で生きているということは、とても貴重なことである。この貴重な時をもっと大事にしなければいけない」。そして、もうケンカなどはほしくないことにしようと思つたときに、「誰かに見られている」という感じがして、後ろを振り向くと、公園の林の向こう側にまたUFOが来ていました。母にそのことを知らせよ

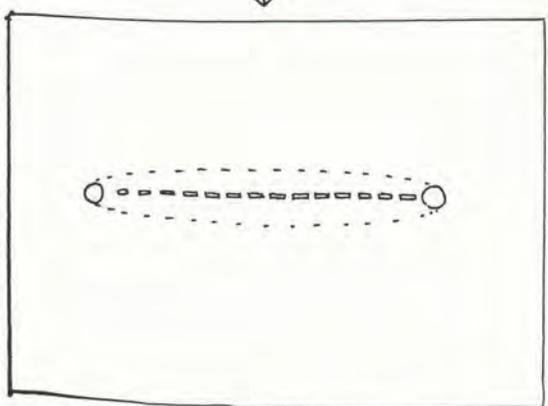
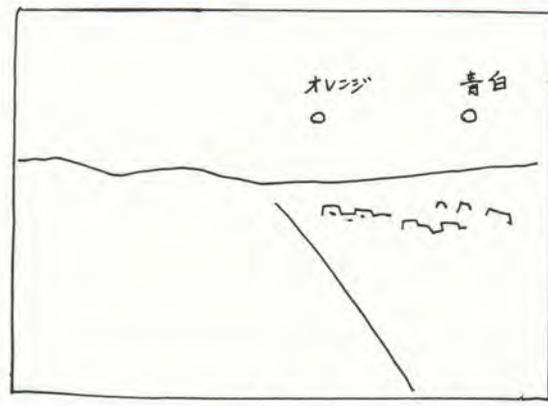
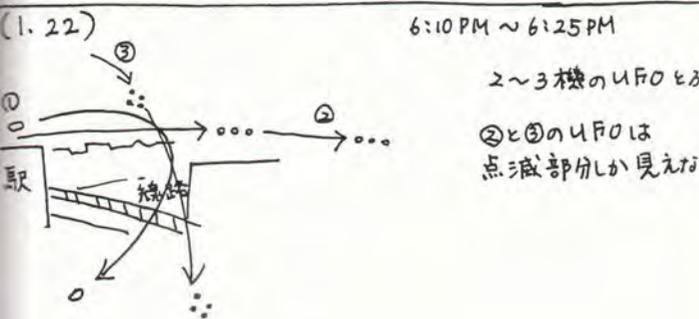
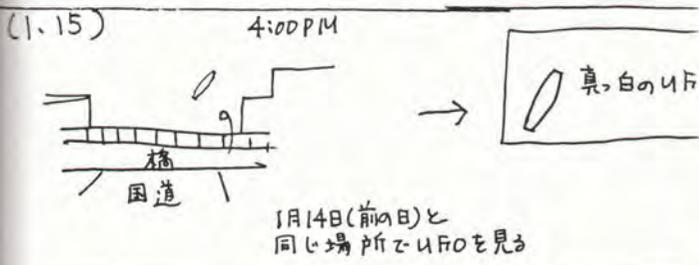
うと思つたときに、UFOはフツと消えてしまいました。

私はこのことから、UFOは母にも私にも、ただ単にその存在を見せに来たのではなく、やはり何かを教えようとしているのだということがわかりました。今この場所で私が人とうまくやっっていけるような生き方を教えてくれているのだと思います。

●二月六日。東京月例セミナーに出席して帰りに姉と二人でUFOを見ました。東京タワーや浜松町駅付近をUFOが飛ぶのを見たのです。浜松町駅の近くでは、ビルとビルの間をUFOが無音で飛びました。

●五月一日。秋田支部大会の帰りに、往きと同じメンバーが車で東北自動車道を東京に向かっていたとき、お互いに学び合いながら宇宙の法則をもっと研究実践してゆこうと話しかつていましたら、車の右上空に白く点滅するUFOが出現。そして前方にオレンジ色のUFOが横切りました。

私達は、自分達が話し合った内容とUFOの出現が関連あることに気づいて、このことを絶対に実行していこうと話していると、車の左側に見えていた二個の光体の真ん中に、窓の明かりが横一連についている巨大な物体が視野に入り、一同驚きましたが、それは母船だということがわかりました。この素晴らしい目撃を忘れることはできません。



「生命の科学」 一万回熟読を目指す

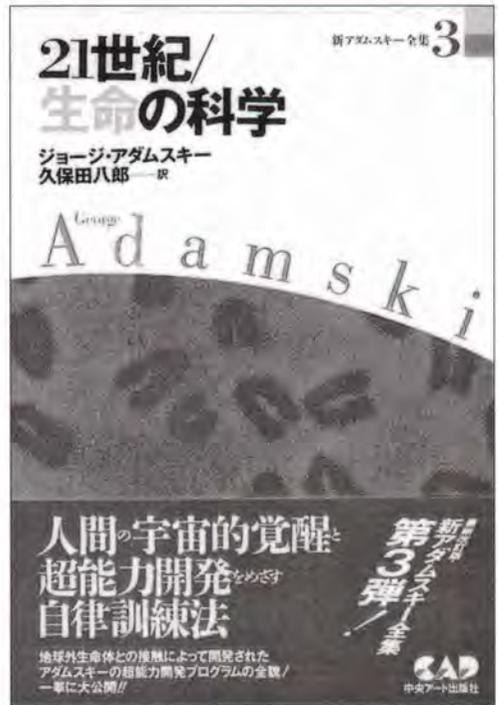
I Try to Read Adamski's "Science
of Life" 10000 Times

加藤 知行 ————— by Tomoyuki Kato

ふと思いついて一月六日より記録をつけてみました。次のとおりです。

ユーコン誌二二八号をお送り下さいまして誠にありがとうございます。今、私は一生懸命にアダムスキー哲学を勉強しております。前に先生にお手紙を差し上げてから一カ月間はなかなか進まなかったのですが、今年の正月の二日か三日頃、家で静かに『生命の科学』を読んでいたら、突然、全身に「これで軌道に乗ったな!」という感覚がわきおこってきたのです。

これは私にとって実に不思議な体験でした。そして実際にそれ以後はそのとおりになってきました。今年はずっと毎日とぎれずに『生命の科学』を読んでいます。



しかし以前の水準とくらべると、かなり読む量が落ちていきます。また独身時代のように毎日二回も三回も連日のごとく読むということはとても不可能です。

それであまり無理をせず、なるだけ一〇〇歳くらいまで長生きさせて頂いて、先生との約束、「生命の科学」を一万回読む」を達成させたいと思っております。

今後、九九×回を目指して今頑張っております。その意味で本誌二二八

日	内容
一月 六日	全課
七日	一課〜四課
八日	全課
九日	全課
一〇日	全課十一課〜五課
十一日	全課
十二日	一課〜九課
十三日	一課〜五課
十四日	一課、二課
十五日	一課〜一〇課
十六日	一課〜四課
十七日	一課〜九課
十八日	全課
十九日	一課〜四課
二〇日	一課〜八課
二一日	一課〜二課
二二日	全課十一課、二課
二三日	一課〜六課
二四日	全課十一課〜五課
二五日	一課〜九課

号の「ユーコン広場」に私の決意が載ったのは大いなる励みになりました。ここで止めると男が廃ると思ひ、大いに勇気づけられております。

しかし、まさかまたここまで読めるようになろうとは思ってもおりませんでした。二、三カ月前には到底考えられなかったことです。もし昨年一月の広島大会に出でいなかったら、今はもう全然アダムスキー氏の本を読んでいなかったかもしれません。その意味で先生に大変感謝しております。

ところで、先月一月一七日に兵庫県南部地震が起こり、神戸が大変な被害にあいました。神戸は私にとって大変思い出の多い土地なのです。今生においては二十数年前、約三カ月前、アルバイトのようなことをさせて頂いて、その間、念写修行をした土地です。

そのときお世話になった人や、ご家族のことが気になり、三日前に電話したら通じまして、家に多少の被害はあったものの、みな無事だとのことでした。安心しました。しかし神戸や西宮、大阪方面の会員の方には被害にあわれた方が多くいらっしゃるでしょうし、大変心苦しく思っております。

編注II「生命の科学」は新アダムスキー全集第三巻として中央アート出版社から出ている。アダムスキーの多数ある著書の最後の自家本で、アダムスキー哲学の最高の書といわれている。

宇宙哲学と私のUFO目撃体験

藤沼絹子

私は昨年七月に日本GAPに入会させて頂きました。昨年の春に新アダムスキー全集の第一巻を読み、深い感銘を受けて早速申込みをさせて頂きました。その後は全集一〇巻までは、まるで読み終わるのがもつたいないほど大事にしながら読みました。今まで自分でなんとなく感じていた宇宙の素晴らしい世界が本当にあったのだなあと感激しております。

私自身は何度もUFOを目撃しておりますが、残念ながらメモをしていなかったのですが、何年の何月とは、はっきりと覚えておりませんが、そのときの状況は忘れておりません。久保田会長が二月の東京月例セミナーで、どんなことでもお知らせ下さいと話しておられたので、その言葉に励まされて自分の体験を話させて頂きます。

★子供の頃（小学生）に野球ボールくらい大きな物が、赤く光りながら二〇〜三〇メートルくらいスーッと飛んで行くのを見たのが最初だったと思います。その頃は何なのか理解できなかったもので、不思議な物を見たなあと思っただけでした。

★その夜、九〇年前に自宅のベランダで、夜の九時前後、やはり野球ボールくらいのオレンジ色の物体がスーッと飛んで行くのを五分くらいのあいだに二回見ました。そのときはUFOだと確信しました。次の日からまわりの人達に興奮しながら報告したのを覚えております（まわりの人達は半信半疑で聞いていたようですが）。

★三度目は五〜六年前です。夏休みに伊豆へ言ったとき、夜八時頃、海岸を友人と散歩していたとき、なんとなくUFOがまた見られる予感があったので、空を意識して見ていたら、突然、バレーボール大の物が真っ白に光って、水平線のやや上あたりをものすごいスピードで真横に五〇メートル（？）くらい飛んで、消えていきました。わずかに二〜三秒のことだったので、友人もまわりの人達も気がついていませんし、私も突然のことだったので、声も出ませんでした。

さて、ここ二年前くらいからいろいろな体験をさせて頂いております。

★九三年の九月四日、夜八時半頃、京都駅の近くにあるお店で食事が終わり、外に出たところ、六〜七名の人達が空を見ながら興奮して何か話していましたので、友人とその場所に行って行って空を見たら、雲の中に、かなり大きなオレンジ色に光っている丸い物体が停止しておりました。

その後、すぐ右下に同じ物が光り始めて、やはり私達を見守るようにじつと停止しておりました。

皆がUFOだとか、三機いるとか、口々

に何か言っていたようです。私自身は感激で胸がいっぱいで、一生懸命に感謝のメッセージを送っていました。その間、一〜二分間だったようです。そしてその後、三機とも瞬間的にパッとその場で消えてしまいました。

友人はふだん理路整然としていて、自分で見なければ納得しないような人なのですが、さすがにUFOの存在を認めてくれました。

その後皆さんはそれぞれ帰りましたが、私はその場所に残り、あらためて見せて頂いたことへのお礼と、もしよろしければもう一度見せて下さいとお願いのメッセージを二〇分くらい送りしましたところ、突然に今まで停止していた所より、もっと高い空から何色かの、それはきれいな色の、まーるい光を送って頂きました。

宇宙の素晴らしい人達に始めて自分の思いが通じたことと、一〇分間も私にお付き合ってくれた友人への感謝で、ホテルに帰っても気分が高揚して、なかなか眠れませんでした（残念ながら友人は、そのきれいな光を見ておりません）。

★その次はそれから一カ月くらいあとです。友人の家に泊めて頂いた夜に、二回の部屋で電気を消して二〇分くらい、感謝の気持ちと、見せて下さいというお願いのメッセージを送りましたところ、山の上あたりに緑色の細長い光が見えました。五分くらいしたら、下の方から白いピンポン玉くらいの物が縦にジクザグに出てきて、その緑色の物体の中に消えていきました。

その後、全部消えましたが、私はあきらめずに山を見ていたら、隣の隣の山の上で同じ光景を見ました。その間、二〇分くらいだったと思います。

最後に、今年（九五五年）の一月五日の夜八時頃に見せて頂いたUFOのことを報告します。京都の奥の北山杉で有名な所に泊まったときです。そのときは新年を祝福してきつとUFOを見て頂けるのではないかと想着、一〇分くらい「Happy New Year」のメッセージを送りながら、持参した双眼鏡で空を見ていたら、星でもない、やや大きな丸い物がポーツと浮かんでいました。

最初は目の錯覚かなと思ひ、ズーツと見ていたら、その柔らかい光がだんだんとアダムスキー型の形になり、その色も薄紫色になり、それからまるで砂金をちりばめたようにキラキラと輝き、思わず大きな声で「きれい！」と叫んでいました。そして約一〇分間くらいクラゲが海面にただよっているような感じで山の下に移動して消えてしまいました。

東京月例セミナーに参加させて頂いたのはまだ昨年の一二月と今年の一二月の二回ですが、新年会のように会員の皆様にとっても親切にして頂き、楽しい時間をすごさせて頂きました。そして久保田先生の意義深いお話を聞けた自分の幸運に感謝しております。これから毎日少しの時間でも宇宙の意識を学びながら自分を磨き、ささやかながら皆様のお役にたてることを願っております。

★日本GAP東京月例セミナー三〇〇 回達成記念祝賀行事、大盛況

既報のとおり去る三月五日に記念行事を開催、昼間の機械振興会館における特別セミナーは約二〇〇名の出席者があり、夜、資生堂パーティーで開催した祝賀パーティーも約八〇名の参加者で大盛況であった。詳細は本号四九頁に掲載。

★高松支部大会開催

来たる五月二十八日午後一時より日本GAP高松支部は第一回の支部大会を香川県高松市屋島西町の「高松テルサ」で開催することになった。ここは正式名称を高松勤労者福祉センターといい、大ホール、大小会議室、研修室、宿泊室、食堂等を完備した近代的な豪華な建物で、昼間の大会、夜の夕食会、宿泊のすべてがこの建物内で実施できる便利な施設。四国地方、中国地方の会員の方は多数参加されたい。非会員の方でも参加できる。詳細予告は本号四五頁に掲載されている。

★5月と8月の東京月例セミナー開催 日の臨時変更

今年五月のみ東京月例セミナーは、第一日曜日の七日から、第二日曜日の一四日に臨時変更される。会場も従来の第二研修室から右隣の第一研究室に臨時変更されるので注意のほどを。
八月も第一日曜日の六日から、第二日曜日の一三日に臨時変更し、会場も隣の第一研修室に臨時変更される。

★九月の本年度日本GAP総会

九月は連休初日の二三日に機械振興会館地下二階の大ホールで、国際気能法研究所所長・哲学博士・秋山真人氏の講演により、盛大な総会を開催の予定。夜は同会館の六階ホールで大夕食会を開催。詳細予告は本誌次号(一三〇号・七月下旬発行予定)に掲載の予定。大盛況が予想される。翌日は恒例の観光を実施するが、行先その他については未定。

この総会のために、九月の第一日曜日の月例セミナーは中止されるのでご注意のほどを。

★ワシントン市のアダムスキー大会

本年九月上旬、アメリカ・ワシントン市において、アダムスキー問題主体の研究大会が開催される機運が濃厚になった。これはかねてから八月に開催される予定であったが、事情により九月に変更されたむねが先般主催者より久保田会長に連絡された。具体的なプログラムその他は未定のようなが、世界から集めたアダムスキー問題の研究者や団体主宰者が三日間にわたって一堂に会し、国連の重要人物とともにアダムスキー問題に関して徹底的に討議して、米政府に働きかけることを目的とするものらしい。正式な招待状が久保田会長宛に届けば、会長は日本代表として出席する予定という。

★新著「UFOと異星人の真相」

かねてコンタクトティーとしてスベール

ス・ピーブルとコンタクトしたり円盤や母船に乗って別な惑星を訪問した珍しい体験を持つ日本人青年M氏の体験談と宇宙的な哲学を、多年にわたって詳細に聴取した上、徹底的に調査して事実であることを確認した久保田会長は、その内容を一書にまとめたが、これが「UFOと異星人の真相」と題して、三月中旬に中央アート出版社から刊行された。

これには主人公M氏が搭乗した宇宙船や別な惑星などの光景をイラストにして掲載。氏が語る円盤や母船内の状況、別な惑星を訪問した体験、異星人から聞いた宇宙的な哲学等、珍しい実話が満載されている。この広告は本号五一頁に掲載。GAP会員必読の書。日本GAPでも取り扱うので、希望者はGAP本部宛注文されたい。著者のサイン入り本を送る。定価一六五〇円、送料三一〇円。代金後払いも可。その場合はハガキに書名、住所、氏名、電話番号を明記して出されたい。

★英文版「UFOコンタクト」誌一〇号

英文版「UFO contactee」誌一〇号は発行が遅れていたが、二月上旬に刊行された。今度の号には昨年度の日本GAP総会で行なわれたアメリカGAP主宰者ダニエル・ロス氏の素晴らしい講演「アダムスキー・永遠の真実と栄光」の英原稿全部が掲載されている。この日本語訳は本誌二二八号に掲載されているので、対照して読めば

英語学習に好適な読み物となる。さらに講演の音声は本誌巻末に掲載の録音テープで聞くことが出来るから、三点揃えれば絶好の英語学習教材になる。アダムスキー中心のUFOと宇宙哲学関係の英語教材としては他に類がない。ただし録音テープだけは日本GAPでなく、本部役員の一入、松村芳之氏が頒布しているのでそちらへ申し込まれたい。宛先は巻末の広告欄に出ている。

★日本GAP特別維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別個に特別維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、普通会員がさるにGAPの運営と発展に貢献するための援助ネットワークであって、絶大な役割を果たしている。これに加入すれば、久保田会長が個人で毎月発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが贈られる。これにはユーコン誌に掲載されない秘話や行事の速報、会長独自の宇宙的能力の開発法その他の有益な記事が満載されている。加入希望者は「特別維持会員案内書」とハガキに書いて日本GAP宛に出せば案内書が送られる。ただし普通会員でない人が特別維持会員になることはできないので注意されたい。エッセイ「意識の声」は四月号より美麗オフセット印刷になって読みやすくなった。A4紙面にギッシリ印刷された記事が三枚分あり、読み応えは充分。これを綴じて保存している人が多い。

超大型望遠鏡、完成間近

国立天文台の超大型望遠鏡「すばる」の建設が仕上げ段階に入った。

一枚鏡の望遠鏡では世界最大の直径八・二メートルの主鏡を擁している。観測は九八年に開始される。総工費約四〇〇億円で一〇〇億光年離れた銀河を捉えることができる。主鏡表面の凹凸誤差は一〇〇〇分の一ミリ以下であり、東京二三区を〇・三ミリの粗さで地ならしする精度に等しい。(1・18朝)



▶直径八・二メートルの主鏡。六角形のガラス材四四個を並べて熱で溶かし、一体化した。渦状の輪は加工の跡。

日本で最古の製鉄炉

広島県三原市の小丸遺跡から三世紀につくられた製鉄炉が見つかった。

直径約五〇センチ、深さ約二五センチのすり鉢状の穴で左右にスラグが詰まった土こうがある。複数の穴が一緒につくられ、近くから弥生時代の土器が見つ

り、原始的な形状をしていることから三世紀のものと考えられている。(1・13朝)

乳房温存でも九割再発せず

乳癌の手術はこれまで乳房を大きく切除する手術が主流だったが、乳房を一部残す乳房温存療法を適用しても、再発率は全部切除した場合と変わらないことが厚生省の調査でわかった。乳房切除は女性の生活に与える影響が大きく、今後は温存療法の選択にはずみがつきそうである。

調査は大阪府成人病センター、癌研究付属病院などで行なった。癌の直径が二センチ以下でリンパ節への転移がない小規模な癌を持つ患者延べ一六九五人に温存療法を実施したところ、五年後に再発していない人の割合は九二パーセントであった。一方、従来から行なわれていた全切除の場合は九〇・九五パーセントであり、両者にはほとんど差がない結果になった。(1・14読)

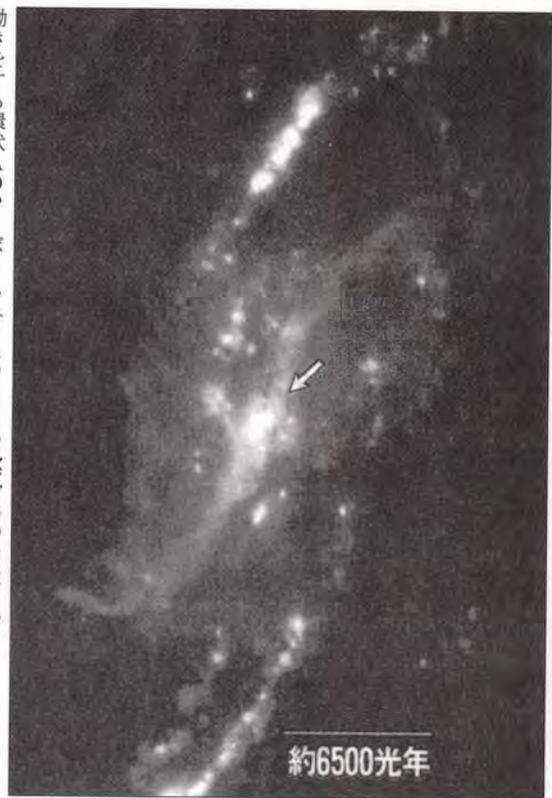
アレルギーは姿勢にも一因

東海大工学部の師岡教授は、アトピー性皮膚炎などの「アレルギー」と「姿勢」の関連性を発表した。

同教授はアレルギー患者の背骨は緩やかな湾曲を持つ健康者の背骨に比べて平らになっている人が多いことに着目し、背骨を正常に戻す筋力トレーニングを二カ月間行なった結果、アレルギー症状が大幅に改善した。背骨を矯正することで背骨に狭まれた神経活動が活性化し、副腎皮質機能が向上するという。(1・21読)

インシュリン分泌の解明進む

インシュリンを分泌する膵臓の細胞(ベータ細胞)で、情報の伝達に大切な



これをブラックホール

国立天文台は地球から約二〇〇〇万年離れた銀河の中心に巨大なブラックホールが存在することを発表した。

りょうけん座にある渦巻銀河NGC 4258を米国東海岸からハワイの間にある一〇基の電波望遠鏡を結んだシステムを使って観測した結果、銀河中心にあるリング状ガス雲が超高速で回転していることを突き止めた。内径〇・四光年の空間にある天体の質量を計算した結果、太陽の三六〇〇万倍あることがわかり、もしこれが恒星の集団だとすると過密状態ですぐに衝突し壊れてしまうため、その正体はブラックホール以外には考えられないという。(1・12読)

アレキサンダー大王の墓を発見

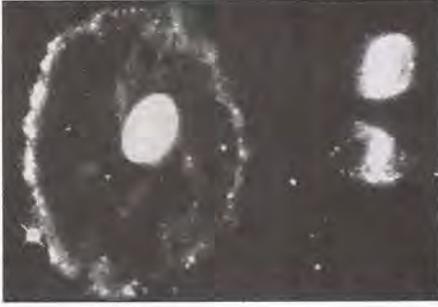
古代マケドニアのアレキサンダー大王の墓がギリシャ考古学調査隊により発見

働きをする環状ADPリボース(cADPR)を生成、分解する物質を、東北大学医学部の岡本教授らが解明した。

ベータ細胞では、血液中のブドウ糖が増えるとcADPRがつくられ、これが細胞内の貯蔵庫からカルシウムを放出し、インシュリン分泌を促すことがわかってい

る。岡本教授らは、cADPRの生成に関係する物質がリンパ球表面の抗原蛋白質の一つのCD38であることを突き止めた。これが酵素として作用し、cADPRを分解したり、生成したりしていた。CD38の働きはブドウ糖からできるアデノシン三リン酸(ATP)が調整していた。ATP濃度が低いとCD38は分解されてcADPRもできない。高いとCD38がcADPRをつくり、カルシウムの放出が増えてインシュリン分泌が促されるとい

う。(1・25朝)



された。遺跡はカイロ西方六二五キロの場所、まず二枚の石板を発見した。石板には大王の死後エジプトを支配したプトレマイオス一世が「私は神が大王に命じたことに従って大王の遺体をここに運んだ。私は秘密を隠し、彼の遺言を実行した」と刻まれていた。(1・30朝)

世界最高速の光導電スイッチ
工業技術院電子技術総合研究所が開閉時間五七〇フェムト秒(一フェムト秒は千兆分の一秒)という世界最高速の光導電スイッチを開発した。走査型トンネル顕微鏡による微細加工技術を応用したものでこれまでの記録は八七〇フェムト秒であった。同研究所はガリウムヒ素の半導体基板状に薄いチタン膜を蒸着し、その上をSTMプローブで走査して酸化チタンの絶縁物を作った。これに上部からレーザー光をあてると導電率が高くなり電気が通じる。絶縁物をはさんだことにより電極間を狭くでき、耐電圧も上がって高速動作が可能になった。(2・1朝)

銀河と銀河が正面衝突

NASAのハッブル宇宙望遠鏡は銀河同士が正面衝突した直後と思われる写真を公表した。約五億光年離れたちようこくしつ座にあるカートホイール銀河である。上の写真左の銀河中心から放射状に広がるリングがあり、右の二つの銀河のどちらかが左の銀河と正面衝突したと考えられている。(1・12朝)

無精子で受精、妊娠

鳥取大学医学部のニコラオス助手らのグループが、無精子症の男性精子の細胞から核を取り出し、卵子に注入することに世界で初めて成功した。海外での臨床応用で四月下旬に最初の赤ちゃんが生まれる。

造精機能障害によって精子がつかれない男性の精巣から約八〇ミリグラムを切り取り、精子になる前の細胞をフィルターで抽出する。そこから取り出した核を成熟した卵子に注入し、受精させ、胚がある程度育ったところで子宮に入れて妊娠させる。成功した四組の夫婦の胎児は順調に育っている。(2・4朝)

アルツハイマーの抑制物質を確認

東京都老人総合研究所の内田研究員らはアルツハイマー病の原因とされる蛋白質「アミロイド・ペータ」の毒性を、脳に含まれる成長抑制因子(GIF)が緩和することを動物細胞を使って確認した。アルツハイマー病患者では、脳の中にペータ蛋白が多量に沈着している。このために痴呆症状が出るとの説が有力である。ところがこの蛋白質が脳にたまって痴呆症状が現われない人がいる。

そこで内田研究員らは、脳に毒性を抑える物質が含まれていると考え、神経細

胞を維持する働きを持つGIFに着目した。ネズミの細胞ではペータ蛋白が四〇パーセントほどの細胞を殺す状態にGIFを加えると、一五パーセントしか死ななくなったという。(2・6朝)

絶対音感の脳

音の高さを自由に聞き分ける絶対音感のあるプロの音楽家の脳を調べたら、通常に比べて大脳皮質の特定部分がかなり大きいことを、ドイツの神経学者が脳のMRI撮影で発見した。

ハインリッヒ・ハイン大のグループが、三〇人のプロ音楽家の脳をMRI検査したところ、絶対音感を持つ一人は左半球の音感を司る特定部分が、右半球の同じ場所に比べて平均四〇パーセントも大きいことがわかった。絶対音感のない音楽家は音楽経験のない人に比べてほんの少し大きいだけだった。(2・10朝)

肝細胞を一〇〇倍に増殖

広島大学理学部の吉崎教授らは肝臓の細胞を短期間で一〇〇倍以上に増殖させる方法を開発した。ヒトの細胞において確立されれば、肝硬変や肝炎の患者の健康な細胞を取り出して増殖させ、新たな肝臓として利用することができる。

吉崎教授らは、これまで使用されてきた細胞分裂用培養液に、活性持続型のピタミンCやニコチン酸アミド、ホルモンの一種の上皮性増殖因子などを加えた独自の培養液を開発した。これでネズミの肝細胞を増殖させたところ、これまでは二回しかなかった細胞分裂が連続しておき、一〇日間で一〇〇倍以上に増え、機能にも異常はなかったという。

日本では年間約三〇〇〇〇人が肝硬変や激症肝炎、肝臓ガンで亡くなっている。



五〇〇以上の機能を持つ肝臓は、人工化が最も困難な臓器である。(2・24朝)

トップクオーク確認

米国フェルミ国立加速器研究所の共同実験グループは、物質を形作る基本粒子クオークのうち、最後までその正体がかめなかったトップクオークを発見した。クオークは素粒子を形作る最小の単位である。同グループは八年間加速器テバトロンにより陽子と反陽子を衝突させて九・九九九パーセントの確率でトップクオークの存在を確認した。(3・6朝)

日本最古の飾り太刀

日本最古の金銅製飾り太刀が福岡の古墳から出土した。つかがしらの環に線刻と浮彫りで竜の文様が描かれている。口をあけた二匹の竜が中央で向かい合っている。(2・6朝)

巨大母船、安比高原に出現！

●秋山和広

東京都内五反田駅前で喫茶店を経営する日本GAP会員・秋山和広氏は、正月休みに岩手県・前森山の安比高原スキー場へ家族三人でスキーに行ったとき、巨大な母船と思われる雲型の現象が超低空に発生して驚愕した。以下はその詳細な報告。

槇之介君が発見

平成六年一月三日より一月四日まで、岩手県森岡市郊外の安比高原スキー場へ一家三人でスキー旅行に出かけた。このスキー場に友人が所有するログハウスがあり、そこへ宿泊できるからである。

元旦と二日、友人の子供を交えて滑り、三日の午後からは私達親子三人で滑っていた。

四時近くになり、少しずつ人も減って暗くなりかけてきたので、最後の滑りにしようとして、第二リフトB（図参照）に乗った。

途中、私の後ろに乗っていた息子の槇之介（小六）が「お父さん、変な雲があるよ」と声をかけてきたので、右

前方に目を向けてみると、雲った空中中に二本のジェット機の飛行機雲を見つけたので、何を寝ぼけたことを言っているのかなと思っていたが、リフトを降車後、また息子が「あの雲、変じゃない」と声をかけてきた。

そこで上を見ると、なんと想像を絶する巨大な黒い大母船の形をした雲のように見える物が、私達の頭上の空中に横たわっているではないか！

驚嘆のあまり、「うわーっ」と声を叫ぶだけで、一瞬、我を忘れて呆然となった。

その巨大なことは話にならない。いまこの高原に着陸するのか！

頭上に覆いかぶさった物体は、標高一三〇メートルの前森山を圧するかのごとく、視野一面をさえぎっている。ただの雲ではない。母船型の輪廓が明確に見えて薄曇りの白い空にくっきりと浮かび上がっている。これはまさに生きものだ！これが別な惑星から来た母船でなくて何だろう。なぜこんなに超低空に降下したのか――。

気を取り直して、ポケットに入れていたカメラ（コニカビッグミニ）をか

まえて夢中でシャッターを押したが、残念ながら、あまりに巨大なためにフアインダー視野に全体が入らない。仕方なく部分的に少しずつ撮影しながら、枚数を考える余裕もないままにシャッターを押しまくった。そして何度も感謝の想念を上空に送った。

別な惑星から来た？

興奮して空を見ながら写真ばかり撮っていたので、近くにいた年配の女性と高校生らしい娘さんが聞く。

「どうかしたんですか？」
「あれは母船とって――」と簡単に説明すると

「不自然な雲ですね」と言いながら、娘さんもカメラのシャッターを押している。

この場を去るのはつらい。二度とこのような光景を目にする機会はないだろう。私は目を皿のようにして端から端まで見つめ続けた。母船のとがった先端から後部まで見るには、首を二〇度動かす必要がある。それほどの至近距離なのだ。

空は白く曇っているけれども、ちぎれ雲はなく、母船の黒いシルエツトが一五分ほど停止していた。そこから声が響いてくるような気がする。「これは別な惑星から来た母船ですよ」と。

日本GAPは援助されているんだという力強い想念がわきおこる。

巨大すぎて人々は気づかない

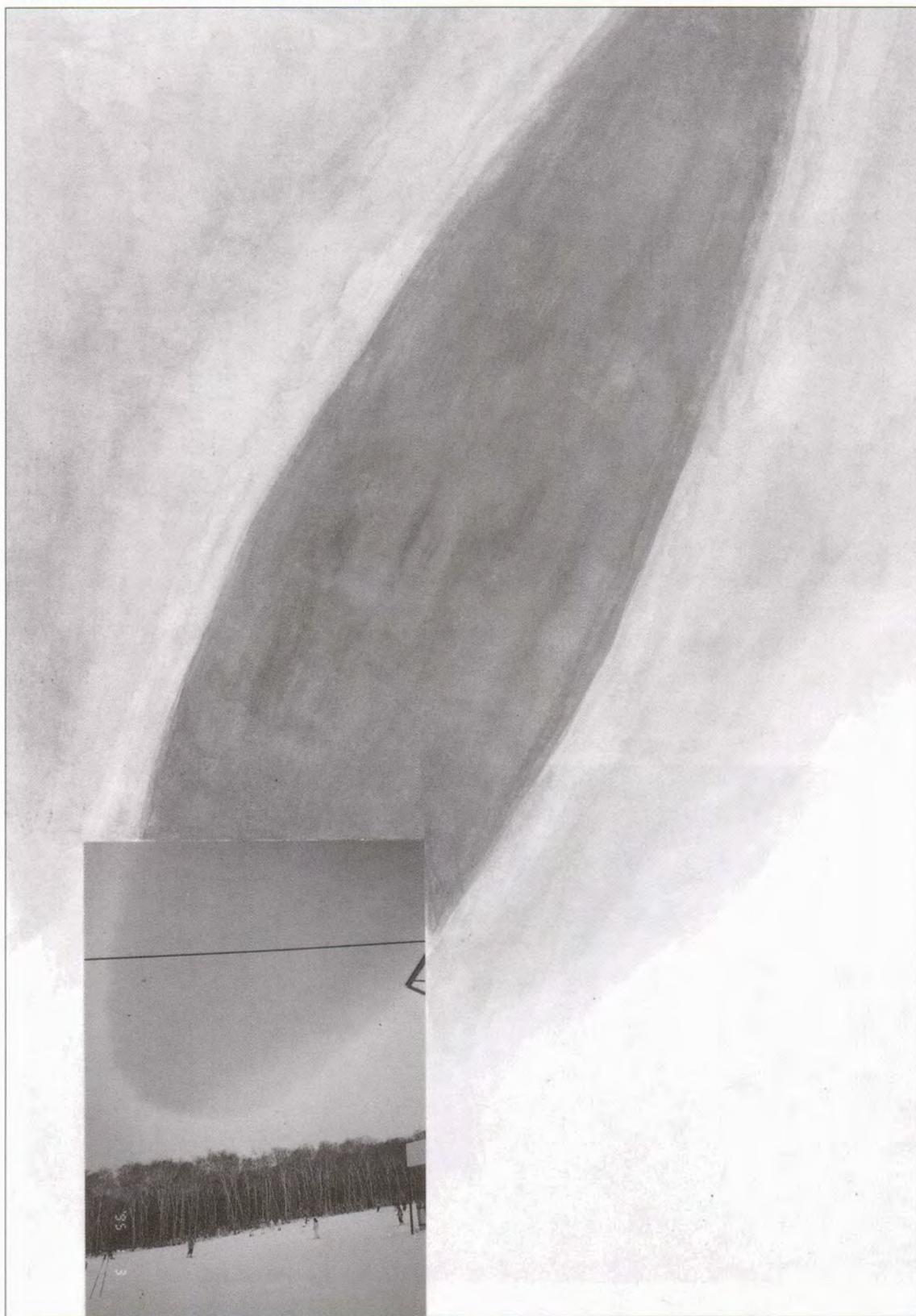
だいぶ暗くなってきた。第二リフトの運転も停止した頃は、なぜか急に人影も消えて、周囲のグレンデには私達親子三人と、すぐ真上にいる母船だけとなる。このときは感激の極致で、もうどうなってもよいと思った。

言葉では説明のしようのない、母船と同じ波動の中にひたっているかのような至福感に満たされながら、そして何度も感謝の想念を送りながら、安比スキーセンターの前まで降りてきた。

下方へ移動したことによって母船が小さくなり、そのためにカメラのフアインダーに全体が入るのではないかと思つて、急いでフィルムを買い、上空を見上げたが、先程よりもかなり暗くなっていたが、母船も少し長く見えて、ぼやけていた後部もはつきりと葉巻型の姿を呈していた。それでも信じられないほど巨大である。本当に物凄く大きいのだ！
スキーセンターの前には沢山のスキ

●安比スキー場の巨大な母船(フォースフィールドに包まれている)

先端部分だけを撮った下の写真に胴体をつぎ足して描いた。現場では大母船は真横に細長く横たわっていた。撮影は秋山和広氏。イラストは数江夫人による。



「ヤーがいたけれども、誰も気づいた人はいないようだ。母船は第二リフトBの場所で見たりも、少しスキーセンターの方へ寄ってきたようにも思われる。」

それでも首を二〇〇度動かさないと全体を見ることはできない。私の推測では、全長一キロないし二キロメートルぐらいあったように思う。

センター前で二四枚の写真を撮り終えて、ログハウスに帰る前に駐車場からももう一度上空を見たら、空はすっかり暗くなっていたが、それでもまだ明確に母船の姿は判別できた。

五時二〇分、ログハウスに着いて、もう一度上空を見たら、真つ暗な空の中に母船の形は不思議にも白っぽく変わった。

六時三〇分、外に出て見上げたら、同じ場所にまだ白く浮かんでいる。写真は暗すぎて写っていないかった。その後、七時に見上げたら跡形もなかった。

その夜、ベッドで息子に「もう一度あの母船に感謝の気持ちを伝えようよ」と話しかけたら、「いま僕もそれを考えていたんだよ」と言う。

榎之介君の不思議なカルマ

息子の榎之介が小学校一年の運動会するとき、朝八時四五分頃、国旗掲揚で校舎屋上のセンターポールに目を向け

ていたら、横にいた妻が「あれ、UF Oじゃない」と話しかけてきた。

よく見ると、センターポールの先から二〜三メートル離れた感じの上空で、銀色にキラキラと輝く小さな物体が浮かんでいたの、手に持っていた8ミリビデオで撮影したことがある。

それと本誌一二一号に掲載された息子の記事「アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる！」に関する事件と今回の母船の件は、なにか息子にまつわる出現なので、不思議な気持がする。いずれにしても、今回の安比スキー旅行の大事件は私達親子にとって生涯忘れられない思い出深い正月早々の出来事だった。

編注||筆者・秋山氏は古くからの熱心なGAP会員で、品川区の五反田駅前でコーヒー専門の「カフェ・トゥジュール・デビュテ」いう喫茶店を営みしておられる。ここは俳優の高倉健氏やその他の有名人が出入りする店として名高い。

一九九二年二月二七日の夕方五時二〇分頃、当時小学校四年生の榎之介君は、都内品川区でバスに乗っていたとき、アダムスキー型円盤が超低空で前方から飛んでくるのを目撃したことがある。この詳細は本誌一二一号に掲載されている。今回の安比スキー場でも大母船が出現している状況から察すると、本人には一種の宇宙的なカルマ

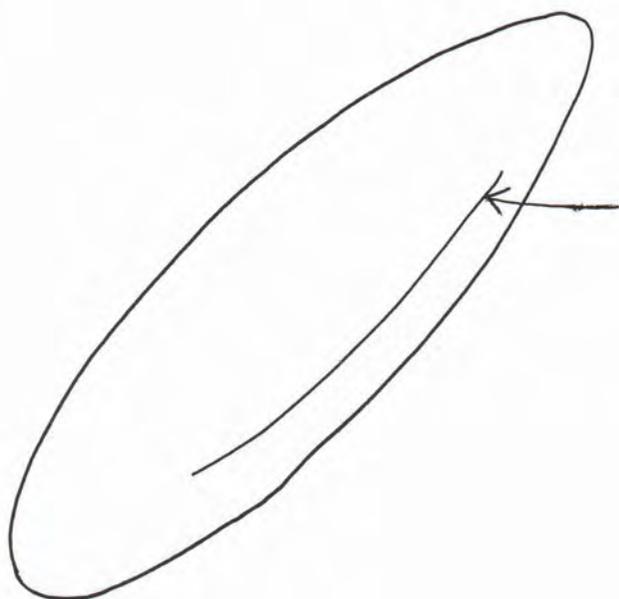
があるように思われる。この記事中に掲載された写真類は、すべて本物の大母船であると超能力者で有名な秋山眞

人氏が鑑定している。全体が雲のように見えるのは、フォースフィールドで船体を包んでいるからだという。

▼秋山氏一家。右より和広氏、榎之介君、数江夫人。



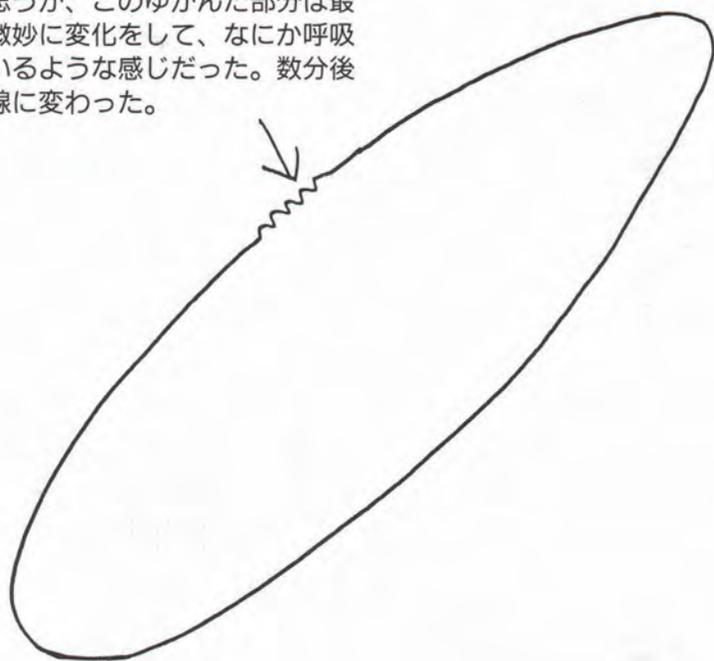
図 1



最初この部分がほのかに虹色を発し、雲のまわりは不思議に白っぽく縁どられていた。

図 2

船体はフォースフィールドで覆われていたと思うが、このゆがんだ部分は最初から微妙に変化をして、なにか呼吸をしているような感じだった。数分後には直線に変わった。



安比高原スキー場



第2リフトB (標高約1000m)

セントラルスキーセンター

ログハウス

◆セントラルゲレンデ—第1ペアリフト A・B・C・D
第2ペアリフト A・B・C
ザイラー連絡リフト

◆ザイラーゲレンデ—ザイラー第1リフト
ザイラー第2リフト

上記リフトにてアクセスできない上部ゲレンデでの滑走はご注意ください。

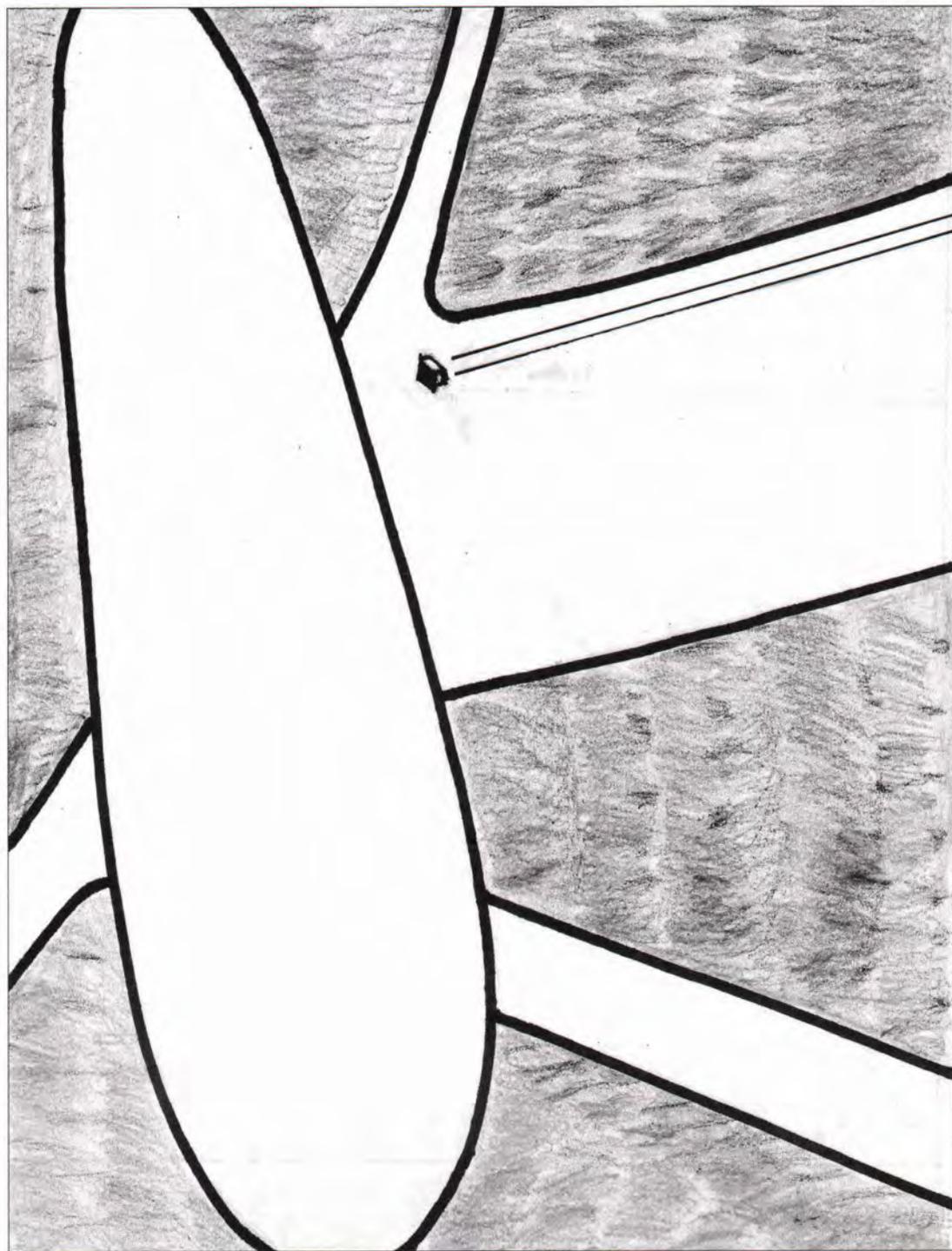
上級コース 中級コース 初級コース

大母船の俯瞰図

ふかん

高所から見下ろした大母船の図(左)。下方はスキー場のゲレンデとリフト。

イラストは数江夫人による



サイコメトリーによる 書物の質の感知法

How to Perceive the Quality of
Books by Psychometry
by Kuniyoshi Hayashi

(Manager of GAP-Japan
Nagoya Branch)

林 国宜

アダムスキー哲学と サイコメトリー

昨年一月二三日に開催された広島カチナ会主催の「久保田先生講演会」に参加させて頂きました折、たまたま久保田先生とお話する機会を得ました。会話が波動の話題となり、私はふと思いついて物品から出る波動をチェックする方法について話してみました。GAP活動を推進していくなかで、先生から何かアドバイスを頂ければ幸いと思つてのことですが、結果的に波動のチェック方法の話題を提供するかたちとなつてしまいました。

少々出過ぎたことを申し上げてしまつたかなあと恐縮しながらも、話題が進行するなかで、私はいままで感じた範囲での体験として波動をチェックする方法について述べ、参考になればと思つて具体的に、書物から出ている何らかの波動を感覚として少々とらえることができることをお話ししましたところ、ぜひ原稿にまとめてみなさいとお言葉を頂きましたので、未熟ながら今回の原稿作成となつた次第です。

日本GAP名古屋支部代表の林氏はアダムスキー哲学の真摯な実践家であるが、またサイコメトリーの能力に秀でた超能力者でもある。今回ユークン誌のために各種の書物をサイコメトリーで実験した結果を寄せられた。本来誰でもこの能力を開発出来る可能性を有するので、この興味深い記事は読者に極めて有益となるだろう。

ません。感覚的なレベルが中心です。しかしこの感覚は、視覚、聴覚、嗅覚、味覚の四感とは異なる感覚であることは間違い内容で、アダムスキー氏が述べています「**「感知」の範疇に入るものであるかは、正直に言つてより体験を重ねてゆかなければと思つております。**

最近、精神世界に関する情報は、以前にもまして洪水のごとく出てまいりまして、コンピニエンスストアですら精神世界の本などを見かけるほどになりました。こんな時代背景のなかで私達はアダムスキー哲学を研鑽する上でも、精神世界の分野で参考になると思ふような本に接する機会が多いと思ひます。

私もこうした考えから、書店に行つたときには、ときどきその種の本を手にとつて見ていたのですが、いつ頃からかわかりませんが、本を手にするときさまざまな感覚がなんとなく感じられることに気づき始めました。

そこで、アダムスキー哲学をよく頭において、精神世界関係の本に述べてあることをよく分析、比較し、その内容の違いと、アダムスキー関係の本から感じる感覚と、それらの本からの感覚の違いを観察してみました。

そこである理解を得たわけですが、なぜ自分がこのような感覚を少なからず感じられるようになったかを考えてみました。以前より時間を見つけては、

ある種の自己トレーニングを行なつていたのが一つの原因かと思ひつきました。

自己トレーニング法を考案して実行

アダムスキー氏は自己トレーニングについて「**生命の科学**」(中央アーツ出版社刊・新アダムスキー全集第三巻)で、透視力を開発する方法として両手を見つめる練習を少し述べていますが、具体的な方法は各自のレベルに合わせて自分で見つけることを意味しているように思われます。

そこで私はかねてより自分に適した自己トレーニングの方法はないものかと探していたところ、あるとき、ある方法が目にとまり、これはわりと簡単で実施しやすいと思ひ、その方法を自分なりに変更してマイペースで続けていました。そして最近、この方法は東京月例セミナー等で久保田先生が指導されています。大宇宙思念法にかなり近いものであると思ひましたし、また中国の近代気功の第一人者とも紹介されている超光老師から伝えられたという火の玉ボールをイメージして全身内に移動させる方法にもかなり近い方法であることがわかりました。

(編注)この超光老師の方法は編者が秋山眞人氏から聞いた話をセミナーで紹介したもの)

これらのことから、今まで行なつて

きた方法でよいという結論を出して継続してきましたが、その結果として、物品が帯びている、または放つていなくてもいいですか、つまり「波動」を感じる感覚が以前と比較して、少々敏感になってきたのではないかと考えております。

山本三恵子さんが実験に協力

話は変わりますが、昨年の春、GAP会員の方から男性Kさんを紹介して頂き、その方のお誘いを受けてある所へ出かけたところ、Kさんと同行された山本三恵子さんという方を紹介されたのですが、山本さんは精神世界に大変興味がある方で、お話をしていくなかで、これはアダムスキー哲学が理解できる人だと一瞬の閃きがあり、後日『生命の科学』をお渡ししました。するとその日、正確には午後三時過ぎにアダムスキー型のUFOを目撃されました。

少したってからのことですが、山本さんからアダムスキー哲学に大変関心を持ったと連絡を頂きました。そのとき、今までアダムスキー氏を全く知らなかったと聞き、私としてはかなりショックなことでしたが、山本さんはそれから後のおよそ半年間にかずかずのUFOを目撃されるようになり、自ら日本GAPに入会されました。

さらにここ数カ月の間に、物品から

出る波動も、よりこまかくわかるようになってこられました。そこで私はサイコメトリーについて、一人で行なうよりも二人で行なうほうが、より客観的に把握できるのではないかと思い、山本さんにお願ひしたところ、こころよく了解して頂き、今回協力を仰ぐこととなった次第です。

サイコメトリーの方法について

(1)目を閉じて対象物の上、約一〇センチ前後の距離のところまで左手をかざす。右手でもかまわないが、経験上、左手のほうがより敏感な傾向がある。ただし対象物まで約一〇センチという距離は、対象物によって少々異なる。

(2)身体はどこで感じるのか、そしてその感覚はどのようなものかを感じ取る。
(3)時間的には特定されないが、数秒でわかるときもあるし、一分もあれば充分かと思う。

(4)対象物から手を離れた後も感覚が手または身体に残る場合もある。したがって、別の対象物へ移る場合は、少々時間をとって、あらためて行なうほうがよいかもしれない。

(5)各自の考案になる自己トレーニングを行なった上で、サイコメトリーを行なうほうが敏感になる傾向がある。

だから必ずしも他人の方法にこだわる必要はない。自分なりの基本的な土台の確立が重要である。

写真集から撮影者の体調を感知

今回サイコメトリーを行なうにあたり、以前に体験した一例を紹介してみたいと思います。

あるときプロ写真家のK氏の写真集を見る機会がありました。タイトルは忘れましたが、表紙に掲載されている花の写真を見ますと全く非の打ちどころがなく、アングル、カラーコントラスト、構図等、どれをとっても素晴らしい出来映えで、見ていても楽しくなるようなものでした。

(編注)筆者・林氏はカメラのベテランでもある)

しかしページをめくるにしたがい、素晴らしいいくつかの写真を見ているにもかかわらず、私の手と腕、そして胸のあたりに少々重い感覚と少しの痛みが感じられてきました。

たまたまその写真集を見ていた場所が知人とよく行く喫茶店で、そのマスターはDPE店も経営されていて、写真についてもかなりくわしい方なので、その写真家について聞いてみましたところ、その人は三〇代のはじめに惜しくもガンで亡くなられたということでした。やはり目で見た感覚とは全く別の、K氏の想念が写真集から伝わってきたのだなと思い、視覚と感覚とは全く異なることをあらためて感じました。

(編注)編者はむかしこの写真家と面識があった。UFOの写真撮影されて編者のもとへ送ってこられたことがある)

写真といえば、昨年、日本GAP主催による海外旅行に参加された佐々木八郎さんから、旅行中に撮影されたというかずかずのUFOが飛来した引き跡の雲の形とか、その他UFOに関連する多くの写真を、あるとき拝見させて頂きました。

そのなかの一枚にかなり強い熱気を感じた写真がありました。すると佐々木さんから「これは何でしょうか」と聞かれましたので、私は「私にはよくわかりませんが、かなりのエネルギーを感じますよ。何かのエネルギーが放射されてフィルム面に露光したのではないのでしょうか」と感想を述べておきました。

UFO写真を見ますと、UFOの飛行した形跡のある雲、UFOから何らかの形で放射されたエネルギーが露光したときとか、さらには直接UFOらしき光体が写っている写真からは、暖かき、熱気、心地好さなどを活性化させる感覚が共通してあるようです。

では次に山本三恵子さんのご協力のもとに行なったサイコメトリーの結果をご紹介しますと思います。今回実験の対象とした本は以下のとおりです。

なお、これらの本をサイコメトリーで感知する際には、先入観を排除する

- ために、目隠しをして無作為で抽出しながら手をかざしたことをつけ加えておきます。したがって実験時には、どの本であるかは実験者にはわかりません。
- (1) 『生命の科学』 G・アダムスキー著
久保田八郎訳／中央アート出版社
- (2) 『UFO母船の写真のあるテレフォ
ンカード』 日本GAPより頒布中
- (3) 『UFOコンタクトタイ』 一二七号
日本GAP発行
- (4) 『気を啓く』 秋山真人著／ハートピ
ア計画出版
- (5) 『パ○○○ル』 A氏著 (翻訳書)
- (6) 『ハイ○○○○○○○○』 C氏著
- (7) 『真実の○○○○』 A氏著
- (8) 『超越○○○○門』 M氏著 (翻訳書)

サイコメトリーの実験

「生命の科学」 G・アダムスキー著

A 林所有
B 山本所有

A		林	山本
感覚	身体		
<p>* きめ細かく力強いパワーを感じる</p> <p>* 透明な感じ * 大きく広がる感覚</p> <p>* 30〜40センチ上まで強いエネルギーを感じる</p> <p>* 柔らかくしつかりしたものを、掌 いっぱいにつかむ感じがある</p>	<p>* 手全体に強いエネルギーを感じる</p> <p>* 指先と掌中央が特にピンピン強い</p> <p>* 全身に心地よさ、顔の紅潮</p> <p>* 掌の疲れがスツと取れる</p> <p>* 全身にエネルギーが満ちて体調が 良くなる感じ</p>		<p>* 心が心地よい眠気</p> <p>* パワフルな感覚</p>

B		林	山本
感覚	身体		
<p>【コメント】</p> <p>* 母船のテレカと同じようなあたたかさを感 じるが、テレカのほうがより動的な感覚。</p>	<p>* あたたかさ</p> <p>* 柔らかく優しくしつかりした感覚</p>	<p>* 表紙のアダムスキーの字の部分に 集中したエネルギーを感じる</p>	<p>【コメント】</p> <p>* 表紙の赤い色を透視した 一人で目を閉じて行なった時、本に 触れずに数冊広げたが、端の一冊 に少し触れてしまい、その感触を 記憶してこれは「ハイ○○○○ ○○○○」だと思いながら手 をかざし、上記の感覚を感じて目 を開け、それが「生命の科学」だと 分かった。両者の本には同じ表現 が幾つかあるが、この本には幸福 感とか体の強い快感などを感じ、 同じ表現があっても、感覚は 大きな違いを捉えることに気づい た。</p> <p>* 別の時いつものように目を閉じて 本を広げたため、「生命の科学」 の上に「パ○○○ル」が一部重 なっているのを感じずに行なった ところ、上記と同じ感覚もかすか に感じたが「パ○○○ル」のほう を強く感じてしまった。</p>

【母船のテレフォンカード】

林所有

		感 覚	身 体
【コメント】	林	<ul style="list-style-type: none"> * 暖かい以上の熱気を感じる * 柔らかさ、きめ細かい、マイルド、高貴を感じる * 太く、力強い、たくさんのエネルギーを感じる * 約20センチ上まで、エネルギーを感じる * エネルギーが集束されている感じ 	<ul style="list-style-type: none"> * 掌、指先、全身を感じる * 上半身がリラックスする * 身体の気のめぐりに障害があるところに暖かさを感じる
	山本	<ul style="list-style-type: none"> * 柔らかさ * やさしさ * 胸のチャクラからスート、遠心的に活性化されてゆく感覚 	<ul style="list-style-type: none"> 掌の真ん中にやさしさのパワーを感じる * 甘い味がし、唾液が盛んに出る * 背骨に快感 * 掌に熱感

		感 覚	身 体
【コメント】	林	<ul style="list-style-type: none"> * 快感 * あたたかさや涼しさを同時に感じ、母船の写真のあたりが最も強く感じる 	<ul style="list-style-type: none"> * 手、腕にエネルギーを感じ、特に掌が強い * 手の疲れが取れる感覚がある * 胸のチャクラのあたりがムズムズする * 第3のチャクラのあたりが締め付けられる感じ
	山本	<ul style="list-style-type: none"> * うれしさ * あたたかさ * 柔らかさ 	<ul style="list-style-type: none"> * 頭へ気がシューと昇る感じがする

<p>毎日行なったところ、生まれて初めてUFOらしい光体を目撃されたといわれます。実は、この方との出会いもある偶然の原因で知りあうこととなりました。それ以来アダムスキー哲学に大変興味を持たれるようになり、最近日本GAPに入会されました。テレフォンカードでも、知らせる運動へのアプローチは可能であると思います。</p>
--

<p>【コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> * テレカと異なり、大きく広がったエネルギーを感じるが、テレカほどの強さではない * 母船の白いハロー部分に特に暖かいものを感じる * Uコンの中央部に独特のパワーがある。 * 後に心地よい感覚が残る。
<p>【コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> * テレカと同質の活性化がある。 * ある時、胸のチャクラがじんじんと活性化されて広がるのを感じ、私の前に置いたこの本から感じていることに気づいた * ある席でUコンのバックナンバールを数冊胸の前に持ち、表紙を向こうに紹介しようとしたところ、熱気の塊のような熱さが胸にドンと

【UFOコンタクトティー誌】 127号 林所有

「気を啓く」^{ひら} 秋山真人著

きた。

		B		A	
		感 覚	身 体	感 覚	身 体
<p>【コメント】</p> <p>*能力のある方と接した時、第3の目、胸のチャクラあたりに強く活動的な感覚を感じたことが今まで何回かあるが、この本からもそれを感じる</p> <p>*メンタリティーに強いものを感じる</p> <p>*本から手を離れた後でも心地よい感覚の余韻が残る</p>		<p>*あたたかさ</p> <p>*エネルギーを感じる</p>	<p>*腹部にパワーを感じる</p>	<p>*あたたかさとし涼しさ</p> <p>*エネルギーが強く本の上20センチまでビームの束のように感じる</p> <p>*クリアな透明感</p>	<p>*掌に若干の涼しさとあたたかさ</p> <p>*腹から胸へかけ啓発される感じ</p>
		<p>*あたたかさとうれしさ</p> <p>*ソフトな快感</p> <p>*心地よい眠気</p> <p>*やさしさ</p>	<p>*掌にソフトなビリビリ感</p>	<p>*あたたかさとうれしさ</p> <p>*強いエネルギーを感じる</p> <p>*浮揚感</p>	<p>*頭の中を天頂に冴えた涼しさが上昇</p> <p>*掌に熱感</p> <p>*掌にビリビリとしたパワー</p>
<p>【コメント】</p> <p>*目を閉じ手をかざしてすぐ、クスクス笑いたくなるうれしさがあった。</p> <p>*同じ本でも、林所有と山本所有では感じる幅に違いがあることに気づいた。</p>					

「ハ○○○ル」 A氏著 山本所有

		感 覚	身 体
<p>【コメント】</p> <p>*書店でこの本を手に取り、ひとつ内容をみようと思いきや開けようとした瞬間、手の指から掌のあたりに激痛が走り、あやうく本を落としかけた。すぐ、棚に戻したが約一分程余韻が残っていて、なるべく早く元に戻そうと、ひっそり手を振った記憶がある。</p>		<p>*暖かく力強く、柔らかい熱気は感じるが心地よいものではない。</p>	<p>*腕が疲れる</p> <p>*腕の芯が硬直する感じ</p>
		<p>*数度行なったが、上記の身体への感覚の三ツくらいをそのつど感じ、うれしさと寂しさを同時に感じるのが印象的。</p>	<p>*頭がフワフワする</p> <p>*全身、特に胃がしびれる</p> <p>*本の一部にソフトに刺す感じがある</p> <p>*手が暖かい、熱い</p> <p>*背中が冷感</p> <p>*うれしい感じと寂しい感じの同居。</p>



難病を癒す奇跡の超医療

工学博士 深野一幸著
廣濟堂 ¥850

精神世界を探究する著者は、遠隔思念その他の方法によって遠方の難病患者を奇跡的に治す超能力者6名を紹介し、難病に苦しむ人達に朗報を提供している。難病持ちや医師に見放された人達の必読の書といえるだろう。



▲林 国宣氏



▲山本三恵子さん

感覚	身体	
<p>* 暗く重い感じがし、あまりクリアな感覚はない</p> <p>* ボリュームのあるパワーを、本の20センチ上まで感じる</p>	<p>* 手がだるくなつた</p> <p>* 腕が疲れる</p> <p>* 腹部に抵抗があり、緊張感が走る</p>	林
	<p>* 頭にカーツと昇つた感覚と同時に中心部に痛み</p> <p>* 胃・胸にむかつき</p> <p>* 手・腹部のしびれ感</p> <p>* 背中から頭へ微妙な冷感</p> <p>* あたたかさを感じる</p>	山本

「真実の○○○バ」 A氏著 山本所有

感覚	身体	
<p>【コメント】</p> <p>*なし</p>	<p>*なし</p>	林
<p>【コメント】</p> <p>*あたたかさと悲しみが同居した感覚が印象的。</p>	<p>* 掌に緊張感を感じる</p> <p>* 掌がゴロゴロする</p> <p>* 指先にピリピリ刺すような感覚</p> <p>* 覚めたクールさ</p> <p>* 強いパワーを感じる</p> <p>* パワーが昇る感じ</p> <p>* あたたかさと悲しみ</p> <p>* 金属性の冷たさを帯びた感覚</p>	山本

「ハイ○○○○○○○○○○」 C氏著 山本所有

<p>【コメント】</p> <p>*本から手を離れた後でも、左手左腕がかなりだるい。 *身体のエネルギーが本に吸い込まれていく感じがした。 *手と腕の筋肉が硬直する感じがした。</p>	<p>【コメント】</p> <p>*なし</p>
--	--------------------------

「超越○○○○門」 M氏著 山本所有

<p>林</p>	<p>山本</p>
<p>【コメント】</p> <p>*なし</p>	<p>【コメント】</p> <p>*目を閉じて行なっていて、表紙の白いイメージが浮かび、何となくこの本だと思った。</p>
<p>感覚</p> <p>*あまり感じられないが、しっかりとエネギーという感じがする。 *疲れはないが、心地よさも感じない</p>	<p>身体</p> <p>*指先に刺すような痛みを感じる</p>
<p>*快感 *ソフトな心地よさ</p>	<p>*頭がスツと冴え、知性的な感じがある *頭が軽く締め付けられ、軽く痛い *下丹田が冷える感じ *指先がビリビリする *掌が暖かい</p>

まとめ

(1) 今回のサイコメトリーはあくまでも客観的な分析結果です。内容を見て批判的とのそしりを受けることもなきにしもあらずですが、アダムスキー氏の述べている「分析をする権利は誰にもある」という観点のもとに行なったことをご理解いただければ幸いです。

分析は判定をくだすためのものではなく、また自分にとって不都合な感覚を感じたとして、それを否定するのではなく、それを特質としてとらえ、さらなる自己研鑽のため、感じたことをできるだけ正直に表現して、GAPの知らせる運動へと繋げていきたいという信念のもとに行ないました。

さらに多くの対象物、そしてより多くの方々によるサイコメトリーの分析が紹介されることで確実な把握ができるものと期待し、日々研鑽に励まれる多くの方々への参考の一つにして頂ければと願って発表させて頂きました。

(2) 今回は書物を中心に行ないましたが、書物が誰かの所有物であれば、所有者の想念波動も十分に含まれていることも考えなければならぬと思います。

今回行なった対象物である『真実の○○○バ』について、当初の購入時には、より強い感覚が感じられました。書物であれば、より新しく、あまり人の手に触れられていない状態のほうが、

より明確な分析ができると思われれます。さらに書物のなかには、著者、デザイナー出版関係者、紙質等、さまざまな要素が含まれているため、サイコメトリーの結果はやはり多角的に検討する必要がありますかもしれません。

(3) サイコメトリーの結果のなかには、かなりのパワーを感じられた結果も出てまいりました。しかし、その質とパワーとは必ずしも正比例しないということですので。パワーすなわち波動ともいわれているその中に「質」、いかなれば周波数がどのような状態であるものなのかを把握する必要があると思います。パワーがあれば必ずしも良いものとは判断できないようです。

しかし「質」すなわち周波数と言いましても一つの確認であって、分析に過ぎないのではないかと思います。万物とその波動は想造主から創造された結果なのであって、すべてにおいては必然性がある存在しているという事実です。

人間一人一人にも固有の波動が発せられていますが、どのような波動であっても、その中には歴然と「宇宙の意識」すなわち魂が宿っているのであり、他人が面前にいるときには神がいるのと同じであるとアダムスキー氏は述べています。

したがって、他人が今どの段階であるかは問題ではなく、どのような方向性または目的をもって活動しているか

が重要なポイントとなるものと思いません。人間は活動する想念体であるとアダムスキー氏は述べていますが、いずれにしても、「心」と「宇宙の意識」との一体化に向けて常に心がけていることが最も重要な姿勢ではないかと思えます。

(4)サイコメトリーの結果は、私と山本さんがおのおの数回行なった結果と、ある会場で二人同時に自己トレーニングを行なった後で、一人は目を閉じてサイコメトリーの実験を行ない、一人は筆記するというパターンを数回実施してから、結果を集計し、その中で共通する表現をまとめ、微妙な違いのある感覚はそのまま表現してまとめあげました。

けれど、ここで申し上げておきたいのは、目をあけて行なったときと、目を閉じて行なったときの共通点はあるといえども、目をあけて行なったときには、各自の主観的要素が含まれる可能性は大であるということです。今回は一つの試みとして受け取って頂ければ幸いです。

サイコメトリーの潜在能力は誰にもありませんから、「生命の科学」を参考にして練習されるとよいでしょう。

最後に、久保田先生から今回このような機会を与えて頂いたことに深く感謝しますとともに、協力して頂いた山本さんにもお礼を述べてペンを置きたいと思えます。



●ハリウッドのUFOの航跡

1994年8月日本GAPの海外研修旅行でロサンゼルス入りしてハリウッドを訪れたとき、旅行団メンバーの佐々木八郎氏（東京）が、山の標識を撮影したら、上部に不思議な黒い影が写っていた。秋山眞人氏の鑑定によれば、UFOが瞬間的にテレポートしながら通過した航跡という。この写真のサイコメトリーによる結果については31頁を参照。

UFOの速度・肉体と魂・真の科学・長寿法

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集 連載10〉

サンフランシスコ講演における質疑応答で、アダムスキーは素晴らしい知識を与え続ける。現在も生きる白眉の情報。

UFOといわれる別な惑星の宇宙船の速度

Q 他の惑星の宇宙船はどれぐらいの速度で飛ぶのですか。

A そうですね、正確にはわかりませんが、約一億キロメートル近くを一二時間で移動できるでしょう。かなりの速度です。

ただし驚くにはおよびません。なぜなら一九六五年までに地球人も時速四八〇万キロメートルで飛ぶ宇宙船を開発することになるからです。ロサンジェルス近郊のエアロジェット航空機会社が、今から六カ月前にそのことを発表しました。

異星人は絶対に差別をしない

Q ソ連の理解度に関して、どんな

情報がありますか。

A 異星人に関するかぎり、彼らは個々の国家を区別していません。これまでに私は異星人達がどれほどの進歩をとげているか、彼らがどんな哲学を持つているかについて話してきました。彼らは地球の特定の国や社会に対してえこひいきをしていません。彼らは人類のすべてに等しく敬意を払っています。ですから、もし彼らから地球人に何らかの恩恵がもたらされるとしたら、それは国別にはなく、全世界に平等にもたらされるはずで、以上がご質問に対するお答えです。

異星人達の見解は、「ソ連の人達が自分に与えられた知識をどれほど利用するかは、自分自身にかかっている」というものです。彼らがそれを誤って用いたときには、彼ら自身がその報いを受けることになります。これが「公

平の法則」というものです。

いかなる人間も宇宙の法則から逃げることはできません。その法則は、人間がいくらそれから逃げようとしても、すぐに引き戻して、本人が行なった物事の責任をとらせます。必ずそうなります。

一方、差別の法則に関して言えば、異星人達は地球へやってきて地球人への援助するのに、差別の法則に従うわけにはゆかないのです。

イエスは、肉体、すなわち死ぬべきもの、物質的なものは、生まれては消えてゆくと語っています。形あるものは現われては消えるのです。しかしイエスは「魂も生まれては消える」とは言いませんでした。彼は弟子達を赤ん坊と呼び、「わたしはおまえらを肉ではなしに乳で養う^{（乳を）}ちやるで。それちゆうのは、おまえらはキリストに抱かれた

魂は永遠に不滅

赤ん坊じゃからじゃ」とさえ言っています。そして「そのことをよう考えてみい」と注意しています。

(訳注) イエスと弟子達はシリアを主体とするアラム語の方言である西方アラム語で話していたので、ここでは訳者の出身地である島根県石見地方の方言に訳した)

キリストは復活したではありませんか。それは死とは無縁の存在です!

皆さんはそれを「キリスト」あるいは「魂」または他のどんな名前でも呼ぶことができます。それは皆さんを通じて現われている神の光そのものです。それがなければ皆さんはもちろん私も言葉で話せませんし、生きることさえできません。他のいかなる生き物も同様です。その光は絶対に消えることはありません。それは永遠なるものなのです。

一方、物質すなわち、いつか崩壊するべき物は変化します。それは形を持ち、特定の段階に達すると死滅し、別の形のものに変化します。これについては別の言い方をしてみましょう。そうすれば皆さんは肉体と、それ以外に靈魂とか魂その他のさまざま名前を呼んでいる物との違いを、よりよく理解できるはずです。

いいですか。私は皆さんと全く同じ



▲ジョージ・アダムスキー（右より2人目）

人間です。そして私が家屋や車庫に通じる専用道路ドライブウェイを持つているとしましょう。そこにはいかなる肥料もなく、どんな植物も育ちません。

そしてある日、私が突然死んでしまったとします。そこで皆さんは私を埋葬する場所が他に見当たらないために、仕方なくその道路を掘って、そこに私を埋めます。すると間違いなく三カ月以内に、これまでいかなる植物も育たなかったその場所に草が生え始めることになるでしょう。

続いて牛がやってきてその草を食べ

ます。もし私の遺体がそこに埋められなかったなら、そこに草は生えないでしょうが、今や草が生えて牛がそれを食べました。そして皆さんがその牛の乳をしぼって飲んだとしたら、どうでしょう。そのとき皆さんは何をしたのでしょうか。そのとき皆さんは私を食べた、または飲んだことになるのです。なぜなら、もし私がそこに埋められなかったら、そこに草が生えることはなかったわけです。牛がその草を食べて乳を出すことも当然なかったはずですが、さらに、あるいは皆さんはその牛を殺して、牛が食べた物を食べ、あなたの肉体の一部とするかもしれません。物質はこのようにして常に変化の過程にあるのです。

イエスはまた、我々は「二つの心」ではなくて「一つの心」をもたねばならないと語っています。その「一つの心」とは「意識」と一体化した心のことです。

そもそも「キリスト」という言葉は、「すべてを包含している意識」から派生したものです。それは言うなれば、大きなダイヤモンドから切り取られた、素晴らしい透き通った薄い小片のようなものです。それはまさしく純粋に澄みきっています。ですから「意識」は常に無垢の状態にあるのですが、人間の心はそうではありません。

あの放蕩息子ほうとうしこはそれを発見しました。（訳注）この放蕩息子というのは、新

約聖書ルカ伝の十五・一三―二四にある有名なたとえ話

彼はうつつりやすい心にはなしに、「意識」に従うことを学んで帰還したのです。彼は父親のもとに戻るためには、心からよけいな誇りを取り去り、家に帰ったときに、どんな代価を支払うことになるかと、それを甘んじて受け入れることのできる、真に謙虚な姿勢を身につけねばなりませんでした。そのようにして帰還した彼を父親は祝宴を開いて迎えました。なぜなら、人間が自分自身に打ち勝つことは、この世で達成できるいかなる物事よりも偉大なことであるからです。

真実の科学とは

少し前に戻りましょう。皆さんがこの本（『さらば空飛ぶ円盤』。新アダムスキー全集第六巻『UFOの謎』に訳文を収録）をお持ちかどうかは知りませんが、この中で私はいろいろな事をはかり説明しています。神秘学、形而上学、哲学などはみな科学です。純粋な私たちの科学です。我々が日常で話題にしている科学は、結果から結果へ従って行動しているものであって、純粋な科学ではありません。

我々が純粋な科学という場合、それは抽象的な性質を持つ物事を言います。そのなかで我々は原因から結果を理解しようとするんです。これを行なつて

いる人は少数でした。これまでの歴史のなかでは、マルコーニ、キューリー夫人、シュタインメッツ（ドイツ生まれのアメリカー電気技術者）、アインシュタイン、パーバンク（アメリカの植物改良家）などが現代に出ました。この人達は抽象科学者です。彼らは目に見えない物から見える物へと研究したのです。

宗教も多種類ありますが、それもこれと同じ特殊な状況から生じたのです。元は真の科学であったのに、実際には歪められたのです。真の科学が続けられてきたならば、我々が今日のような混乱におちいったりすることはなかったでしょう。今頃、人類は自分自身をはるかに良く知り、自分自身をはるかに良く理解していたはずですが。

科学には二つのタイプがあるということに常に覚えていて下さい。我々が今日行なっている「結果から結果を」調べるというやり方は、実験等で多額の費用がかかる原因となっています。我々は今、「原因から結果へ」の研究をやれば早く成果が得られるものを、そうしないために多くの発展段階を経てやっと到達するというふうに行っているわけですね。

一例をお話ししましょう。何年も前のことですが、ある科学者が私に言いました。「ジョージ、我々はついに達成したよ。二〇年もの研究の後にね」

「二〇年もかかって?」

「そうだよ。二〇年だ」

そこで私はたずねました。

「その方法をつきとめたからには、あと、どのくらいの時間があれば、それを実際に応用できるんだい?」

「二〇分だ」

「どうやってその方法をつきとめたんだ?」

彼は説明しました。

「それまであれこれと議論していた数学的な問題に関する考え方をきれいに捨て去ったんだ。そしていつさいを忘れて心を自由にしたらとたんに、青空から稲妻が落ちたかのように解答がパツとひらめいたんだ」

これはかつてエディソンが解答を求めるときに用いた方法です。

現代の宗教、特に大きな宗教のすべては、初期の小さな宗教がいくつも一緒にあって今の姿を呈するに至っています。それらの初期の各宗教は元来、宗教というべきものではありませんでした。それらは当時の人々が探求した『生命の科学』でした。その人々のなかには賢者、その他の尊称で称賛されている人が少なくありません。聖書を考えて下さい。我々は今、それ一つからでも千種類の宗教を作り出すことができます。それらのいずれも特定のレベルの人々を引き付けるでしょう。先にもお話ししましたようにこの世界にはさまざまなレベルの人が

存在しています。

そこで特定のレベルの人はそのレベルの教えによって導かれ、やがてそのレベルを越えて次のレベルに登ります。そしてまたそのレベルを越えて、さらに次のレベルへと進歩します。そのようにして人々は次々と高いレベルに登ってゆくでしょう。

ですから、それについては何の心配もありません。問題なのは、彼らが学ぶことをどこかでやめてしまうことです。それが一番の問題です。

しかし今、皆さんが学んでいる哲学(アダムスキーの宇宙哲学)は真に科学的であって、あるべき姿を呈しています。

宗教と科学は双子の姉妹だとよくいわれてきましたが、それは結果の観点からではなくて、原因の観点からいわれていることです。

Q 私たちが別な惑星から来た宇宙船に乗れるのは、それにふさわしい人だけに特権が与えられるのですか。

A それが異星人から与えられるべき性質のものかどうかは、私にはよくわかりません。

しかし、はつきりしていることが一つだけあります。我々は異星人から真実の情報を与えられたとき、それをゆがめたり誤用したりしてはならないということです。本人に対して投げかけられるいかなる攻撃にも屈することなく、いかなる非難にも耐える必要があ

ります。

本人は、自分に与えられた真実を世の中のあらゆる分野に伝えるようにしなければなりません。たとえば、科学者に話をするときには、筋道の立った議論を展開する必要があります。そうした場合がよくあるのです。

教師と話をするときには、相手を教えようとするのではなく、真実についてじっくりと考えさせるための何かを提供するようにすることです。宗教家と話をするときも同様です。

皆さんは、自分が出会うあらゆるタイプの人に、自分の知識を伝えるように心がけねばなりません。十分に常識を働かせて、相手を苛立たせたりすることなく、相手の心に本人が考えるべきことをしっかりと植えつけるようにすることです。

皆さんは以上の能力をすべてそなえる必要があります。これは一日で達成できるものではありません。私自身もそれを完璧に行なってきたわけではないのですが、今では少しは向上していると言えるでしょう。

というのも、私は四歳のときからこうしたことをたゆまず研究してきたからです。私はいま七〇歳を超えています。私は以上のことを自分で判断しているだけです。

恐れずに人々に真実を伝えること

ここでははつきり申したいのは、私は他人を批判するためにここに来ているのではないということです。そんなことは私の仕事ではありません。それは私が行ないたいこととは正反対なことです。

ただ私は真実の誤用がさまざまな形で続いていることは知っています。そのことははつきりとお話しできます。

異星人が皆さんとコンタクトするしたら、相手はそれがある明確な目的をもつて行なうはずで。相手はそのとき、皆さんに与えられた真実の情報を、さまざまな経路を通じて他の人々に伝える媒体に皆さんがなることを期待しているはずで。

皆さんはそれを伝えるのに必ずしも演壇に上る必要はありません。皆さんは路上でも会うことができます。実際、私はこのような会場に集まった聴衆よりも多くの人に——真実を受け入れた人に——ホテルのバーや路上で会い続けてきました。その場合は人々に話すことです。一対一で話すのです。

そうすることによって皆さんは真実の情報を多くの人に伝えることができるのです。異星人達から何らかの情報を伝えられたときには、それに何もつけ加えないことです。なぜなら、その元の知識情報はそれ自体でしっかりと立っているからです。

また、皆さん自身を宣伝するような事をつけ加えたりしないことです。利



●ウルグアイのUFO

1977年7月26日午前10:30頃、南米ウルグアイの建築家セルジオ・オッタメンティがマルドナルドの北5キロあたりを車で走っていたところ、突然車が停止したので外へ出たら上空にUFOが出現していた。これは彼が連続6枚撮影した写真の1枚。

己的な姿勢になり、それによって得られる名誉によって自分のエゴを満足させようなどと考えないことです。なぜなら、そんなことをしても人々は皆さんを称賛しないからです。それによって皆さんは名誉とは正反対の不名誉を受けることになるでしょう。そうなれば自分自身を傷つけるばかりか、異星人問題をもダメにしてしまいます。

ある詐欺師の例

私は、かつて異星人と本当にコンタクトした、そのような人物を知っています。彼も私が与えられたのと同じタイプの、この地球人類にとって有益な情報を、同じ理由で間違いなく与えられました。

しかし、その人物は、これまでそのコンタクトを利用して、二五万ドルいや、おそらく五〇万ドルほどを稼ぎ出しています。

彼は現在、軍用に自分で生産しているある装置に関する理論を異星人から与えられたと称しています。

軍隊は破壊の象徴です。その装置というのは爆弾の発射に関する装置です。それによって爆弾の発射機能は大きく高まりました。そのために彼は莫大なお金を儲けていながら、自分は異星人達の目的にそったことをやっているんだと、うそぶいているんです。

友好的な異星人は、我々地球人に破

壊的な装置を提供するために来たのではありません。我々はすでにその種の装置を沢山持っていました。異星人は逆にその装置を廃棄して、そんなものがない世界を建設するように我々に伝えに来たんです。我々は自分達の文明を自分達の手で破壊してしまうことになるというのです。

というのに、そのコンタクティは異星人が我々にやめさせようとしたことを行なっているのです。彼はお金と名誉のために、異星人から与えられた真実をゆがめ、異星人が地球にやってきた意図と正反対のことを行ないながら、人々を混乱におとしめているのです(訳注)この人物は、異星人から伝えられた平和愛好思想を伝えずに、破壊装置の理論を異星人から教えられたとウソをついているという意味)。このような人物は他にも沢山います。ただし私は彼らの名前を言うつもりはありません。皆さんの手で彼らを発見するとよいでしょう。

森のむこうに光は見えて

次のことも話しておきたいと思えます。もし人類が勝手気ままになれば、人類は自分のしたい放題をします。

しかし、もし人類が自分達を吹き飛ばすことなしにこの地球上で生き続けることに決めたらならば、一九七〇年までか、または若干早まることも遅くな

ることも考えられますが、地球は宇宙的な意味で一つの世界として機能することになるでしょう。これは結果と結びついた抽象科学、抽象哲学を基礎としたことです。

この世界にはすでに抽象科学者達のもとで組織されている四千名を超える科学者が存在しています。今ではもつとふえているかもしれません。

一方、まもなくこの世界は大きな変化を体験することになるでしょう。しかし恐れてはいけません。

我々は今、見知らぬ状況の中を進んでいます。それはちょうど深い森の中を進んでいるようなものです。森の中を歩いているとき、皆さんは、あたり一面の木々に囲まれて恐怖心さえ起こすかもしれません。しかし皆さんは、いざれその森を抜けて、ふたたび明るい光を見ることになりました。

我々は今、その光の方向に進んでいきます。特に宇宙空間に向けた歩みは急速です。我々の歩みはさらに加速されることになりました。

科学と宗教との相違

この種の科学と宗教とのいちばんの違いは以下のとおりです。どちらがよいか、あるいはどちらを得たいかの判断は、皆さん自身が行なうべきことです。

もし誰かが特定の宗教の指導者であ

るとし、皆さんはどの宗教にも属していないと仮定します。その場合、皆さんがその教祖のすすめる宗教に属していないとしたら、教祖は皆さんを非難して、「皆さんは天国にもどこにも行けない。なぜなら、皆さんは私が信じていることを信じない無神論者であるからだ」と言うでしょう。

これが宗教です。それぞれの宗教が自分達こそ正しいかのように見せかけています。しかし皆さんはどの宗教が本当に正しいのかはわかりません。すべての宗教が、自分たちこそ正しいのだと主張しているからです。

結局彼らは、自分たちこそ正しいのだと主張することによって、残りのあらゆる宗教を否定しているわけです。彼らの組織に属さないというだけの理由で言っているのです。

そのようにして彼らは“羊たち”を集めるという本来の仕事せず、それらを分離しているんです。

一方、抽象科学の場合はこうです。どの分野にしても同じですが、ここでは医学の分野を例にあげてみましょう。

ある人物が研究室に何カ月もこもって、国中に蔓延して多くの人を死に追いやっているある病気の治療に役立つ血清剤を発見しようとしています。彼は数カ月間実験しながら日夜研究を続けて、ついにこれだと思えるものを作りあげました。そこで彼は皆さんに要請するかもしれません。

「私のモルモットになつていただけませんか。ただしこの薬は、もしかしたら、あなた方を殺すかもしれません。まだ確信は持てないんです」

皆さんは当然のごとく断るでしょう。そこで彼は自分の体で試すしかないと言悟をきめ、自分で注射針を自分の腕に突き刺して、病原菌を植えつけます。そのようにして、その薬が自分を殺すことになるのか、または救うことになるのかを確かめます。

さて、その結果、もしそれが成功したならば、彼はその薬を全世界に提供します。それを受け入れるか否かは人々が自分の判断で行なうこととなります。その際、彼は人々に対していかなる質問もしません。その際、彼は皆さんが聖人なのか悪人なのか、あるいはどちらでもないのか、また、肌の色は何か、何を信じているのか、どの教会に行っているのか等、そんなことはいっさい問いません。

その科学者は、いかなる質問も発することなく、その薬を人類全体の福祉に供するために世界中に分け与えます。それは太陽や星々が我々すべての頭上に等しく光を注ぐのと全く同じ姿勢です。彼はそのようなにして、すべての人々に別け隔てなく良いものを提供します。

一方、もし誰かがある宗教の指導者で、皆さんを好きでなかったとして、そのために皆さんは彼の宗教にそぐわ

ないと考えたなら、彼は皆さんをその宗教には入れないでしょう。

わかりますか。この両者間には大きな相違があるのです！ たとえ先の科学者が自分に薬を注射した結果、効果がなくて死んでしまったとしても、彼はその場合、全世界のために死んだこととなります。それによって彼は自分が作った薬による犠牲者が出るのを防いだことになるからです。

彼はそのようなにして、成功したときと同様に、一部の人々にはではなく、すべての人々に奉仕したわけです。

結局どちらの結果を得ようとも、その抽象科学者は、皆さんが今日考え得るような、神が行なっていることに最も近いことを行なつたことになるわけです。

長寿の秘訣は何か

Q 我々はどうしたらもつと長生きできるのでしょうか。

A そうですね、昔、旧約聖書の登場人物が達成していたような、あるいは金星人達が現在達成しているような肉体的長寿を我々地球人が得るためには、肉体の老化を発生させているものを排除する必要があります。ただし我々が今生きているこの社会の中でそれを果たすことはきわめて困難なことです。ただし一部の人はそれをかなりうまく行なっています。

大体にこの世界では、人生のわずかの苦悩や不安、すなわち皆さんを常に悩ませ続けている「どうやって家賃を払おうか」とか、その他の実に多くの物事が、皆さんの肉体を、それが再生するスピードで衰えさせているのです。

そこで、皆さんが心の長寿を得ようとするのなら、そのような多くのわずらわしい物事を取り除く必要があります。それらのいずれも皆さんの肉体に緊張を発生させるのです。肉体が激しい緊張状態にあると、たとえ夜ベッドに入っても決してリラククスできません。そんなことでは肉体がいつまでも存在し続けることなど到底無理なことです。我々が旧約聖書時代のような長寿をとりたいためには、自分の肉体を緊張させる要因のすべてを排除しなくてはなりません。

(注訳)金星人は地球式に換算して数百歳の寿命を保つのが普通であるという)

それはきわめて困難なことではあるのですが、喜ばしいことに我々は明らかにその方向にむかつて進んでいます。その動きはアメリカにおいても、明らかです。

現在一般人が何かに向かつて前進しています。彼らはまだそれが何であるかを知りません。しかし皆さんがよく観察するならば、誰もがそれぞれ、「地球人類が、かつての長寿をとりも

どす」という目標に向かつて進んでいることがわかるはずで。

その目標は我々が生きてる間に達成されないかもしれませんが、おそらく二〇三〇年後には実現するでしょう。あるいは三〇〇年程度で達成されるかもしれません。特に我々が宇宙空間に進出したならば、その速度は大きく加速されるはずで。そのとき我々は、それに関する有益な情報をコンタクトイー達だけを通じてでなしに、直接入手できるからです。

我々は現在、その目標達成に寄与する多くのものを手にしています。しかし何よりもまず我々は、心を用いねばなりません。我々はこの肉体ばかりか自分で作り出す「状態」の主人公なのです。我々は自分の心を肉体的福祉に役立つように用いる方法を学ぶ必要があるのです。

万病治療機が導入されたのだが

それを実現させるものとして我々はすでにある機械装置を入手しています。それは私が一九五五年にニューヨークへ行つたときのことでした。私が出した本「宇宙船の内部」(中央アト出版社刊・新アダムスキー全集第一巻『第2惑星からの地球訪問者』中の第二部に収録)が出てまもない頃、ある日私はNBCのグリーン社長から訪問を要請されました。私が出向いて行く

と、彼は私の本を持っていて息子のためにそれにサインをしてくれと言いますので、その本にサインをしました。

そのあとで我々は万病を治すある高周波の機械装置について話をしました。我々はすでにその機械を入手しているのです。それは（大量生産されれば）おそらく一〇〇ドルほどで買える、キヤビネットに入った機械装置です。皆さんがそれを手に入れて、その機械を毎日一〇〜一五分程度用いたならば、三〇日後か、あるいは長くても六〇日後には、皆さんの肉体に巣くっているすべての病気が治るのです。

その機械で皆さんは若さをとりもどし、はるかに若々しい肉体を持つことになります。そのときの皆さんは一〇歳は若返ったように見えるでしょう。我々はすでにそんな機械を持っているのです！

〔訳注〕この機械は異星人がアダムスキーに与えたといわれている。アダムスキーはそれをニューヨークのある大病院に寄贈したが、そのまま隠匿されたという。

ただし、その機械装置はまだ市場に出いていません。もしその機械がアメリカや他の国において、すべての人々によつて常時用いられるようになったら、まもなくあらゆる医者は仕事を失うことになるでしょう。たぶん一年以内にはそうなるはずで、だからその機械の一般への販売はまだ認められていま

せん。しかし我々地球人が正しい方向に向かつて進んでいることは確かです。ただ、多年にわたつて築きあげられ、持続されてきた巨大な仕組み、つまりこの場合は病院という我々の健康維持システムですが、それが全く新しいものに変わるには、かなり長い時間を必要とするのです。一夜のうちに突然、というわけにはゆきません。

精神安定機も開発済み

さらにその他にも我々は素晴らしい物をいくつか完成させています。たとえば、今まもなく市場に出ると思われるのですが、我々の健康に有益な凄い機械が出来ているんです。それは家の中の空気をイオン化させる機能を持ついわゆるエア・コンディショナーです。

誰しも朝、目を覚ますと活気に満ちた状態で行動を開始します。我々が朝に行なうことはパワーに溢れた生活行動です。精神的にも肉体的にも常にプラスの状態です。そして多くの場合、夜になつてもその状態を維持し家族に対して優しくしたいと思つても、つい「頼むから静かにしてくれ。いったい何を言っているんだ！」とひどい言葉を投げかけたりします。

しかし今、新しい機械があります。我々があらゆる緊張を身につけて家に帰つたとしても、その機械が作動して

いれば、ソファアに座つて家の中の空気を吸つたとたん、幸せな楽天使になつてしまうのです。空気中のマイナス・イオンが我々の肉体をすみやかに中和し、リラックスさせてくれるからです。

我々はすでにそんな機械を開発しているんです。それはすでに生産の段階に入つており、まもなく市場に出回るでしょう。しかもその効果は明確に証明されているんです。

私はある研究所でその効果を身をもつて体験しました。時間の都合上、かいつまんでお話ししますが、私はその研究所にいた科学者達に、異星人が開発した機械装置が空気をイオン化する機能があることを教えました。というのは、異星人達は宇宙船の内部にその装置を備えていたからです。しかし科学者達はそのとき自分達が作つたその機械の実態をまだよく知らなかつたのです。私はその装置を作動させて効果を確かめてみようではないかともちかけました。

私が自分の知つていることを説明すると、彼らはすぐに私には内緒で紙巻タバコのカメラの箱を二つ用意して、それぞれの箱に、そのイオン化装置を用いて異なつた処理を施しました。

そしてそのあとで、まず片方の箱のカメラを一本取り出して私に吸わせました。それまで私は精神的にも肉体的にもとても良い状態にあつたのです。

が、それを吸い始めたたん、まわりにいる人を次々に蹴飛ばしてやりたくなるほどの、ひどく腹立たしい気分になつたのです。

続いて彼らはそのタバコにどちらの処理をしたのかを私に言わないまま、それを私から取り上げて、今度は別の箱のタバコを一本私に与えました。

するとどうでしょう。それを吸い始めたたん、それまでの嫌なフィーリングが一挙に消えてしまつたんです。私は実験を開始する前よりかえつて良い気分になりました。家にもどつていました。

あとで彼らが語つたところによると、最初のタバコはプラスのイオンで処理されたもので、二本目のタバコはマイナスのイオンで処理されたものでした。

その機械はある種の病気の治療にも応用できます。ある日、その科学者の一人と彼の七歳の息子と一緒にフットボールの試合を見に行ったのですが、その息子がひどい風邪をひいていたんです。鼻水が出つばなしという状態でも、とても難儀そうでした。そこで私はゲームが終つて家にもどる途中、その科学者に提案してみました。

そこで坊やをその機械で治療したら、風邪が即座に治つて鼻水がピタッと止まつたのです。こんな凄い機械がすでに出来ています。地球の前途は明るいのです。

(以下次号)

第一回 高松支部大会

●ブルーアイランド四国の高松で爽やかな宇宙の波動を満喫!

高松支部発足以来、満を持して機会をうかがっておりましたが、ついに第1回支部大会を開催することになりました。高松円盤降下事件で目撃されたUFOの出現場所に近い会場で、久保田先生の雄大なご講演をお聞きし、高次元のフィーリングに浸ろうではありませんか。昼の講演会、夕食会、宿泊も同じ建物なので大変便利です。四国、中国地方の方はぜひご参加下さい。支部会員一同心からお待ち申し上げております。

★日時 5月28日(日) 13:30-17:00

★会場 「高松テルサ」(正式名称は高松勤労福祉センター)
〒761-01 高松市屋島西町2366-1 TEL0878-44-3511

★交通 バス=(1)JR高松駅よりコトデンバス(高松築港・グランドホテル前・4番乗り場)
(2)屋島大橋線の場合はシーサイドテニスクラブ前下車、徒歩3分。
(3)タクシー利用の場合はJR高松駅より約7分

★会費 ¥3000(全員記念写真代¥1000は希望者のみ別途納入)

—プログラム—

13:00 受付開始
13:30 支部代表挨拶 関 高明
13:35 講演 日本GAP会長 久保田八郎先生
「宇宙哲学で絶対に安全に生きる方法」
15:00 全員記念撮影/休憩
15:30 質疑応答
17:00 閉会

★夕食会 17:30-20:00 同センター別室にて。

★会費 ¥6000

★宿泊 同センター宿泊室(洋室)
シングル ¥5000(税・サービス料込み)
ツイン ¥10000(//)

★申込 夕食会、宿泊希望者は住所・氏名・電話番号明記の上、ハガキで下記へお申し込み下さい。

〒767 香川県三豊郡三野町
下高瀬2451-4

関 高明

TEL0875-72-2698

★観光 翌日は平日のため観光は行いません。

※5月の月例セミナーは中止します。



▼高松テルサ



—高松円盤降下事件—

1984年9月1日の午後6時頃、当時高松市木太6区に住んでいた西本奈生ちゃん(小1-6歳)は、自分のマンションの広場で友達と自転車に乗って遊んでいた。そのとき、田んぼの向こうの屋島の方向からアダムスキー型円盤がジグザグに飛んできた。船体のそばに巨大なネットワークのような美しい色を放つ翼が空中に輝いている。そして円盤は奈生ちゃんから約25メートルの至近距離に接近して、田んぼの上の数メートルの空中に停止した。これはいわゆるアダムスキー型の円盤で、窓の一つから可愛い少年が上半身を現わし、奈生ちゃんの方を見てニコッリ笑い、左手を振ってから、また屋島の方向へ飛び去った。この驚異的事件は久保田八郎著「UFO・遭遇と真実」に詳細な記事が出ている。

Letters

ユー・コン・広場



魂に刻まれるレッスン

兵庫県 木多見昌弘

拝啓 久保田先生にはいつも御指導頂きありがとうございます。また東京月例セミナーの三〇〇回達成おめでとうございます。

実家の家族がこの度の阪神の震災に遭い、大阪支部の平塚代表を通じてGAP会員の皆様からのお見舞いを頂きました。心より御礼申し上げます。

幸いにも私の身内は全員無事で、実家も東灘区の激震区域の真ん中だったので一部の損傷で済みました。今では水道も回復しています。

しかし生まれ育った神戸の街が瓦礫の山となったのを目の当たりにし、まるで自分の一部を失ったかのようなショックを受けました。今でも表通りから横道に入るとつぶれたままの家があらちこちとあり、近くの避難所では多くの人が生きています。まさに大自然の力を見せつけられて、愕然となるばかりです。

ですが今回の災害に出会ったことで、普通なら一〇年も二〇年もたたなければ学べないような多くのレッスンが得られたように思います。特に日本中、世界中から被災地に来て働いて下さっているたくさんの方々を見るとき、今までに持ったことのないような深い感謝の気持ちで湧いてきます。さらにスペース・ビープルの方々から見守られているというこ

投稿歓迎字数を問わない。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

とも確かな実感として感じられました。そして今までの自分が、宇宙哲学を学びながらも、自然や社会についてまだまだ無関心なことが多かったことがわかりました。

五四〇人以上というあまりにも大きな犠牲を思うと、このレッスンを深く魂に刻まれることを願わずにはいられません。

また全国の会員の皆様の暖かい御支援に応えるためにも、一日も早く立ち直っていきたいと思います。

久保田先生には義援金呼び掛けを頂いたところで本当にありがとうございます。助かりました。本部役員の方々に宜しくお伝え下さい。

仲間ができた！

大阪府 吉川美香

御存じのことと思いますが一月七日に関西地区に大地震が起こりました。神戸の大惨事を知ったのは翌日ですが、地震があったのは朝方の六時前でした。私は机に向かっていてこれから寝るところだったので本当に驚きました。ここは大阪でも堺市なので幾分揺れはましだったのかもしれないけれど、震度四で立っただけではないほどの揺れは一度も経験したことがありません。グラスが落ちたり、本棚から本が落ちてきて初めて地震の恐怖を知りました。幸い大

阪はあまり大事には至りませんでした。が、神戸におられる会員の方の安否が気になります。

今この手紙を書いている時にも関東地区の地震情報が入りました。先生は日本全土に起きている地震が何の意味を持つのかを感じられますか？神戸はあまりにも酷い状態です。

毎日テレビでその状況を知ることができず、自分の無力さが情けなくたまりますが、実はこの地震の二、三日前から私は体にわずかな揺れを感じていました。家族に「今揺れたよね？」ときいても誰も感じなかったようです。気のせいなのか、それとも震度一に近い揺れがあったのかはわかりません。今回のことに関西人はこれまで地震はないとされてきた考え方を大きく変えて教訓としてしっかり焼き付けておかななくてはなりません。

ところで最近嬉しい知らせが入りました。数年ぶりに高校の友人と会って話をしているうちにUFOの話になり、彼女が、「私さ、UFO見たことあるんだ、信じて？」というのです。キャンプ場で友人と一緒にいるときに彼女だけが確認し、他の仲間にはそれを信じてもらえなかったそうです。そこで私がUFOのことやアダムスキー全集の話をするのと彼女はすごく興味をもって、「第二惑星からの地球訪問者」を借りていただきました。その後「難しくて理解できない所もあるけど何度も読み直しては考えて読んでいこう」という連絡が来ました。たいへん嬉しく思いました。私の家族や友人の多くは宇宙やGAPのことを全然理解してくれませんので、一緒に学べる仲間がで

きたわけです。彼女は現在GAP入会を考え始めています。

GAPに入会して二年になります。早く仕事を休んで学びの場へ参加させて頂きたいと思っています。風が流行っています。御体に気を付けて下さいね。

三〇〇回重み

山梨県 清水 南

この度は早速Uコンバックナンバー一七七号を御送り下さいまして誠にありがとうございます。

この号には興味深い記事が多く、中でも久保田先生の「奇跡的に難病を治す方法」はこのような記事を真に求めている方にとっては大きな救いになると思います。これを山梨日々新聞読者欄に投稿して多くの人にUコンと共に知って頂くようにと思っております。

それから東京月例セミナー三〇〇回達成おめでとうございます。二五年の永きに亘り多くの私達会員を御指導下さった先生の御努力には言葉では言い尽くせぬ程の感謝の念でいっぱい입니다。どれだけ多くの人々が宇宙的意識に目覚め価値ある幸せな人生を送ることができたかを考えますと、胸に大きな暖かいものが込み上げて参ります。どうかこれからも御元気で末永く御活躍されますことを念じております。

感動のデザートセンター

神奈川県 岡田 茂

久保田先生こんにちは。アメリカのデザートセンターの旅行では本当にありがとうございます。自分にとって初めての海外旅行でしたが、

単なる観光ではなくアダムスキーゆかりの土地を訪ねるという宇宙的な目的があり、しかも久保田先生と御一緒することができました。生涯忘れられないものとなりました。また、立派な写真を送って頂きありがとうございます。

そのころで今月の月例会では講演という重要性を再認識した次第です。ところで今月の月例会では講演という素晴らしい機会を与えて下さり、本当にありがとうございます。これからの自分にとって非常に大きな自信となりました。

一九九五年も久保田先生と日本GAPにとって素晴らしい年でありますように心から御祈り申し上げます。それではさようなら。ありがとうございます。

マチユビチュでの至福の時

山形県 高野昌子

今回御便りしましたのは、あまりにも楽しい南米旅行をしてきましたので先生にも話を聞いて頂きたかったからです。

二月一日から一月四日までベル、ボリアア、ブラジルを一七日間かけて旅行してきました。ペルーではリマ、ナスカ、パジエスタ島、パチャカマ、クスコ、マチユビチュ、モロイ、チチカカ、と一日間かけてゆつくり見て感じてきました。

初めて見るモロイ遺跡やブノノ郊外の四〇〇〇メートルの高地にあるクティンボ遺跡にも驚きました。何となくでもマチユビチュの二日間も格別でした。先生と御一緒にマチユビチュに行くことができた時から、

必ずやもう一度この場所に来る、と
思い始めてから五年半後によく
実現しました。再び見る雨季のマ
チュピチュは緑が豊富で美しかった。

一日目はゆっくり見て歩きました。
午後インカ時代の谷にかかる橋を
見て帰ると日帰りの人達がいなくな
ったマチュピチュは嘘のように静か
でした。ツリススタホテルに泊まる
人だけがほんの少し残っているの
ですが、人影が見えないのです。そん
な静けさの中でガイドさんがケーナ
を吹いてくれました。その音聞き
ながら時間とともに表情を変えるワ
イナピチュをただ見ていました。言
葉では言い表すことができないほど
美しいのです。夕立があり、山間に
虹がかかって全ての神の恵を感じま
した。

翌日はワイナピチュへ登りました。
二時間くらいかけてインカ時代その
ままに残る石段をひたすら登って頂
上近くの見晴台で見たマチュピチュ
は箱庭のようでした。ワイナピチュ
頂上には大きな岩が数個組み合わさ
れているだけで今は何もありません
が、とても中途半端なさみさを感
じました。

雨季に見るマチュピチュは、泉に
水が溢れ、花が咲き、リヤマが食べ
る緑の草が豊富にあった、昔そのま
まのように感じました。

私にとって今回の旅行は偶然とラ
ツキが重なってできた旅行でした。
数カ月前には夢にも思っていなかつ
たことだし、出発する前にはブラジ
ルのピザや黄熱病の予防接種で苦労
して、本当に行けるのだろうかと思
ったほどでした。どうにかトラブル

を乗り越えることができたのも、信
じることを忘れてはいけないという
宇宙の意識の教えの御蔭だと思っ
ています。いろんなトラブルが起きる
度にマチュピチュにいる自分の姿を
思い描いていました。GAPに入会
してから十数年になりましたが、宇宙
の意識をこれほど身近に感じること
ができたのは初めてです。

テレパシー、地震エネルギー

東京 浜田敬博

*テレパシーの周辺議論

超常現象を研究している方の中に
は、超心理学の立場から携わってい
る方がいます。例えばテレパシーの
場合はガンツフェルド実験を行ない
ます。実験に関係する人達の無作為
性に注意して互いに隔離された被験
者同士で、例えば紙に書いた文字が
同じであれば批判の入り込む余地は
なく実験は成功したとし、テレパシ
ーの存在を認めるものですね。

自然界では電子はエネルギー順位
の高い所から低い所へ遷移するとき
に光を放ちます。ガンツフェルド実
験でも被験者の間で光を受け取るこ
とがあれば、光は電磁波ですから、
テレパシーは人間間の電磁波現象で
ある、ということが出来ます。

大槻教授は「超自然現象を批判
的・科学的に究明する会」で、以心
伝心のようなテレパシー現象が事実
である場合はそれをどう考えるか、
という質問に対して「事実である場
合には物理学の新しい分野になるで
しょう」と述べていました。

*地震のエネルギー

保存力を受けて運動する物質には
力学的エネルギー保存則が成立しま

す。運動に関する一般解、及びその
微分を使って保存則の全エネルギー
に代入すると、その大きさは振幅の
二乗に比例するようになります。単
振動波の重ね合わせその振幅は二倍
になるのですから、これが全エネル
ギーとして二乗されると結果的に四
倍のエネルギーになります。

私は震度四の地震を体験したこと
があり、その揺れも大きく感じたも
のですが、こうしてみると先の阪神
大震災の震度七はエネルギー的には
私の体験より約四倍になり、激烈さ
が思い測られるような気がします。

元来、地震国日本はたくさん人の活
断層を抱えており、最近はそのらが
エネルギーを蓄えてきていると聞い
ています。今回の震災の教訓として、
万一の時の為により慎重に備えをし
ておく必要があると思います。

五〇〇回まで参加したい

神奈川県 西條美保子

東京月例セミナー三〇〇回達成記
念おめでとうございます。主人と一
緒に出席させて頂きありがとうございます。
しました。

主人の感想は「先生を始め皆様が
向学心に溢れ、何よりも正直に生き
ているように感じられる、信頼でき
る会であり、一日楽しく過ごせたの
でまた行きたい」とのことです。ま
た会場で何かの波動が来て途中から
頭にズキズキするものを感じたそう
です。

先生の御話では、信念の力と希望
を持つて生きること、百歳を越えた
フランスのジャンヌさんのようにい
つもニコニコと笑って生きること、
そして楽しく生きることの大切さを

教わりました。お腹の赤ちゃん共々
良い勉強になりました。無事に生ま
れて大きくなりましたらGAPに参
加させたいと思います。三〇〇回の
次は四〇〇回、五〇〇回と子供と共
に参りたいと思いますので宜しくお
願い致します。

同志を求む！

岡山県 前田昌利

御願いがあります。ユーコン広場
の隅の隅が良いですから下記の事を
掲載して下さい。トラブルが起きな
いよう責任をもって行ないますので
宜しく御願ひ申し上げます。

深遠な事に興味のある方を探してい
ます。連絡して下さい。
〒707-104
岡山県英田郡栗倉村中谷304

前田昌利

神戸から・・・

奈良県 石田順治

厳しい寒さが続いておりますが
如何御過ごしでしょうか。

この度の阪神大震災は関西地方に
住んでいる者にとって夢想だにしな
かった未曾有の大災害となりました。
当日奈良も震度四の激しい揺れを感
じましたのが、幸い何事もなくホツと
したところでテレビを見ましたら、

震源地が淡路島北淡と聞いて今度は
淡路島の対岸明石市に住んでいる母
のことが気になって頭の中がパニッ
クになってしまいました。午前一〇
時頃公衆電話で母と連絡がとれ、よ
うやく安堵した次第です。



◀神戸市内の惨状

撮影／石田順次

一月末に母を訪ねました。水とガ
スは止まっていますが幸い建物(県
営住宅)には損傷なく何とか生活で
きる状態でした。帰る日に明石から
既に復旧しているJＲで神戸に戻り、
三宮地区を見て参りました。小学生
の時から十数年神戸に住んでいた私
にとつて、いろんな思い出のある町
並みが壊滅状態にあるのを見て言葉
を失いました。上から何か落ちてこ
ないかと上を見ながら歩いていたら
地震で壊れた石畳にけつまずくとい
う、まるで笑い話のような状況で写
真をとって参りました。参考にして
下されば幸いです。

それではまた御便りします。御元
気で御過ごし下さい。

UFO contacteeバックナンバー主要記事

★下記の他に101号と105号以降最近号まであります。代金後払い可。ハガキでご注文の場合は号数・住所・氏名・電話番号を明記して下さい。バックナンバーに限り送料は当方でサービスします。ご注文は日本GAPへ気軽にどうぞ。

No.128 1995年(平成7年)1月25日発行 ¥900

アダムスキー・永遠の真実と栄光——ダニエル・ロス
わが母の驚異のUFO目撃——ミシェル・ジルガー
総会の日にUFO出現
那須高原で巨大母船出現！——堀江健一
ダニエル・ロス氏宅訪問記——久保田八郎
あなたもオーラが見える——遠藤昭則
予知能力を持つ土星人女性の援助——G・アダムスキー

No.127 平成6年10月25日発行 ¥900

UFO出現の国—メキシコ——久保田八郎
ロスウェル事件とMJ12文書——坂本貢一
UFO目撃と不思議体験の旅——4名執筆
私もアダムスキー型円盤を見た！——田口邦雄
UFOとオーラと想念——山崎和子
奇跡的に難病を治す方法——久保田八郎
異星人とUFOの真相②——G・アダムスキー

No.126 平成6年7月25日発行 ¥900

驚異の瞬間移動とUFOの超低空降下——久保田八郎
UFOを頻繁に見る私のカルマ②——溜池みゆき
GAP活動と共にUFO出現頻発——林 寛子
東北自動車道に母船が出現——林 慎子
私も母船を見た！——津田篤孝
ムー大陸から見た原日本人——澤入達男
昔のUFO目撃の思い出——橋本恵一
異星人とUFOの真相①——G・アダムスキー

No.125 平成6年4月25日発行 ¥900

UFO、デザートセンター上空を飛ぶ——久保田八郎
私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た——大野義和
UFOを頻繁に見る私のカルマ——溜池みゆき
不思議な予知透視——米川宣雄
突然出現した不思議な人間——千葉敏江
生命と物質と超能力——伊藤睦史
異星人はなぜ地球へ来るのか——G・アダムスキー

No.124 平成6年1月25日発行 ¥900

信念の力、希望の力、絶対に諦めない力を起こす方法——久保田八郎
今世紀末、大変動発生なし！——秋山真人
私を助けてくれる異星人達——上原則子
アダムスキー型円盤、長時間出現——石井佳子
浅草上空に出現したUFO——堀江健一
UFO・宇宙・人間——G・アダムスキー

No.123 平成5年10月25日発行 ¥900

凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視——編集部
私を助けてくれる異星人①——上原則子
山梨県に出現した巨大UFO——編集部
エゼキエルはUFOを見た？——久保田八郎
私はアダムスキー型円盤を見た——海瀬宏子
UFOと異星人の実態——G・アダムスキー
謎の古代マヤ遺跡とUFO——久保田八郎

No.122 平成5年7月25日発行 ¥900

金星文字を解読してUFOの推進原理を解明！——パシル・バン・デン・バーグ
星々への切符——遠藤昭則
オメ教授が発見した金星？文字——久保田八郎
不思議な体験連続の人生——千葉福造
オーラで異星人を見分ける——紙屋光孝
私だけが見るUFO——須山有美子/宮本浩子
万物は人間の想念に感応する——塩谷信男
四感・生命の息・転生——G・アダムスキー

No.121 平成5年1月25日発行 ¥900

パロマー山にUFO出現——久保田八郎
宇宙ボタルはUFO
アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる！——
江戸川堤防の怪光体——鈴木 武
不思議な筒状の雲——沼倉孝彦
人間・イメージ・波動——佐々木八郎
驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動——G・アダムスキー

No.120 平成5年1月25日発行 ¥900

宇宙的な信念と勇気を起こす方法——久保田八郎
二人の異星人からの忠告——辻 俊昭
テレパシーで植物を動かす方法——遠藤昭則
人間は生来テレパシー能力を持つ——堀江健一
夜空の不思議な“映像”——田辺優子
重力と宇宙の自然のパワー——G・アダムスキー
モアイとUFOの島へ——伊東芳和

No.119 平成4年10月25日発行 ¥900

夜空に不思議な「U」の文字が出現——久保田八郎
私の超能力開発体験と異星人女性との出会い——佐々木八郎
瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快——口ノ町一男
ミコミラクルワールドとイメージ法で腰痛が急速に治る——穴原美智子
神室山上空のUFO——沼倉 孝彦
UFO・異星人・地球人——G・アダムスキー

No.118 平成4年7月25日発行 ¥900

イエスの実像と転生の法則——久保田八郎
計り知れぬ影響力をもつアダムスキー——中村省三
宇宙の意識とともに願望を実現させる方法——高梨十光
私のUFO目撃と不思議な体験——川野晶子
音楽は生命エネルギーを運ぶ——鷲見 弘
UFO・異星人・地球人①——G・アダムスキー
天地万物との一体化で長寿——塩屋信男

No.117 平成4年4月25日発行 ¥900

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現！——
地球救済活動を続ける異星人②——秋山真人
飛行機を助けた謎のUFO——
奇跡を起こす反復思念とイメージ法——久保田八郎
善だけを探し求めてテレパシーが発現——小川隆志
ひとりで物品が動く現象——大嶋順子
思いどおりに出現するUFO——中島直仁
ジョージ・アダムスキーと異星人②——アリス・ポマロイ

大成況！日本GAP東京月例セミナー300回達成特別記念行事

日本GAP会長久保田八郎先生が東京へ進出された六九年の九月から開始された月例研究会が昨年八月をもって通算二五年、計三〇〇回に達した。この大偉業を記念して特別セミナーと記念祝賀会を開催しようという機運が高まった結果、去る三月五日に都内港区

の東京タワー前の機械振興会館でまず昼間のセミナーが実施された。当日は絶好の快晴下、予想を上回る約一二〇名の参加者があって六階六六号室は超満員。まず本部役員の遠藤昭則氏による、「回想の月例セミナー」と題する講演が三〇分行なわれる。古い

会員の遠藤氏は、長年大変な苦勞を顔に出されなかつた先生の人徳を賛嘆し、GAPの宇宙的意義を強調された。続いて本部役員でセミナー司会者を多年務めた篠芳史氏がさらに先生を賛美し、先生が博學多識で驚くべき多様な能力の持ち主であることを力説する。

次に先生による「日本GAPと私の人生」と題する講演が一時半行なわれた。先生の恵まれなかつた生い立ちと、苦難の環境を突破しながら強烈な信念の力でアダムスキー支持の大活動を展開された非常に興味深いお話が淡々と練り広げられる。しかし決して構えた話ではなく、先生独特の軽妙洒脱、ユーモラスな語り口にとどき笑声がわき起こる。非常にリラックスした楽しい講話であった。そのあとスライドで珍しい写真の映写があり、ここでも解説で先生は大いに笑わせた。普段は一見ムツカシそうに見えるが実際にはユーモアを好む方である。

そのあとテレパシー練習を全員で行ない、小沢恵子氏（東京・多摩市）が優勝、立派な賞品を授与された。

五時に閉会后、会場を銀座八丁目の資生堂パーラーに変更。四階の大ホールで八〇名の参加者のもとに盛大な祝賀パーティーが開催され、大いに歓談し、記念写真等に打ち興じた。阪神大震災後のこととて自粛して派手なアトラクション等は控えた。最後に先生直筆の色紙と、会員で陶芸家の坂本茂子女士の手になるシンボルマーク入りのマグカップが出席者全員に贈呈されて終了した。ご参加下さった方々に厚く御礼を申し上げる次第です。きわめて知的な品格のある宇宙的な雰囲気満ちた一日であった。

東京本部役員幹事 田中 淳



▲写真右上より特別セミナーにおける遠藤昭則、篠芳史両本部役員の講演。久保田会長講演。左上より会員代表・清水南氏の挨拶、林国宜・名古屋支部代表の乾杯首頭。

George Adamski

新アダムスキー全集

ジョージ・アダムスキー＝著／久保田八郎＝訳
全面改訂・改訳／全10巻／各 四六判



超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類なき金字塔！

① 第2惑星からの地球訪問者 ●352頁●定価=1,980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者自ら円盤や母船に乗り込み、他の惑星の超絶の大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) ●192頁●定価=1,300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

③ 21世紀/生命の科学 ●208頁●定価=1,300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指図書。心靈現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

④ UFO問答100 ●216頁●定価=1,300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混沌した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

⑤ 金星・土星探訪記 ●380頁●定価=2,400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が狂巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

⑥ UFOの謎 ●262頁●定価=1,980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

⑦ 21世紀の宇宙哲学 ●148頁●定価=1,030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

⑧ UFO・人間・宇宙 ●370頁●定価=2,400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が狂巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を取録。

⑨ UFOの真相 ●320頁●定価=1,980円

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実態と人間味豊かな庶民性をあわせつつ偉人の素顔を多角的に描写。アダムスキー氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ビーターセン、金星文字を解説して画期的な永久モーターを開発したバブル・バン・テン・バーグらの証言が白眉。「サンピエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー ●232頁●定価=1,300円

膨大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ一冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

別巻 UFO-宇宙からの完全な証拠 ●480頁●定価=2,800円

ダニエル・ロス＝著／久保田八郎＝訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にとりて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。



中央アート出版社
〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL=03-3561-7017 / 郵便振替=00180-5-66324

*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き送料がサービスとなります。
*定価は、全て税込です。

UFOと異星人の真相

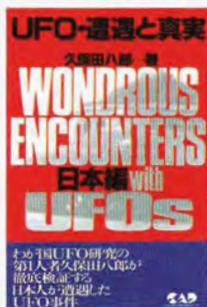
●久保田八郎著 定価1650円 送料310円 四六判・256頁

UFO研究の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとに構成されています。青年が著者に語った証言を通してUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を豊富なイラストを使い、詳細に明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも触れ、様々な疑問を解消していく内容になっているUFOを研究する人の必携の書です。



UFO・遭遇と真実 ー日本編ー

●久保田八郎著 定価1500円 送料310円 四六判・264頁



日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編集した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。



中央アート出版社
〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL = 03-3561-7017 / 郵便振替 = 00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No. 10

発行 日本GAP

B 5版 / 12頁 / コート紙使用 / ¥500 送料¥190 / 5冊まで¥270 / 6冊以上¥390 (NO. 1-3は品切れ)

日本GRP発行英文版コーン誌は理想主義的なUFO専門誌として、世界各国のUFO研究団体や個人研究者から絶賛をあげています。多くのUFO研究誌はオバケ宇宙、誘拐事件、その他恐怖心を煽るような記事に終始しているなか、日本GAPは日本語版・英語版とも地球の未来に大いなる希望を持ち、人々の無限の可能性を引き出すための指針に満ちた記事を掲載しています。英文版第10号には昨年度総会におけるダニエル・ロス氏の講演全文を掲載。他にも新アダムスキー全集第4巻掲載の質疑応答の原文、日本GAPの活動状況を伝えた記事等が流麗な英文で掲載されています。もとの日本語記事と対照して読めば英語学習にも最適です。

編集集後記

★★★

●本号では関西大震災時に不思議な現象が多発して奇跡的に助かった大阪支部代表・平塚和義氏の素晴らしい報告が白眉です。アダムスキー哲学を熱心に実践してこられた氏のカメラが常人とは異なることを意味することはないでしょうか。人間の想念のあり方と運命について考えさせられます。

●また大地震を前夜予感して水を貯めていた西村窓子さんの凄いのテレパシクな感覚は他に類例がないでしょう。これまたアダムスキー哲学の研鑽の結果としか考えられません。

●若手県の安比高原スキー場に出現した巨大母船は大事件なのに、秋山和広氏一家だけしか気付かなかった事実。一般人の感覚はこんなものなのでしょうか。だいいち別の惑星から大宇宙船が地球に飛来するとは夢想もしないのが一般の地球人です。人間の知識と感覚の問題があらためて浮上してきます。

●林国宜氏と山本三恵子氏のサイコメトリーによる書物のチェック結果は興味深い記事です。サイコメトリーの能力は誰でも開発できますから練習されてはどうでしょう。アダムスキー全集第二、三巻が良い指導書です。

●UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方は面談して取材します。ふるってご応募下さい。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊 夏季号 UFO contactee 129号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒100東京都江戸川区本一色1-12-1 8
TEL 03-3651-0955
FAX 03-3651-0955 (01)40-2-35912 振替

一九九五年四月二十五日発行
定価九二七円(本体九〇〇円)・送料240円
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

1995年度

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月のみ第2日曜日の14日に変更。会場も第1研修室に変更。 ※8月のみ第2日曜日の13日に変更。会場も第1研修室に変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー受講料 ¥1500 計 ¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 ※平成6年1月よりテキストを新全集2巻「超能力開発法」に変更。 3:10→5:00 超能力開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部と同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※4月のみ第1日曜日の2日に変更。会場と時間は不変。	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141代。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、セミナーは中止。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお霊屋橋経由動物公園方面バスで約7~10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先=笠原弘司 ☎022-284-2910	¥300	同上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30 ※会場を右記へ変更。	宜野湾市嘉数1-6-5早川宅 館」1F、A会議室。 ☎098-890-1324 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時と会場については小川宛事前に問い合わせること。1月より会場を右記へ変更。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※10月より会場と連絡先を右に変更。	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30 ※5月は支部大会のため月例セミナーは中止。	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時は変更があるため事前に高梨宛電話。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上



オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130



金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



ESPカード〈超能力開発用〉

テレビシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのテューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥900 送料¥130 (2~5個)¥190



テレフォンカード

日本GAP特製テレフォンカードの第7弾。1951年3月15日、午前10時30分、アダムスキーがパロマー山で6インチ反射望遠鏡を使用して連続4枚撮影した金星の母船の4枚目です。母船から6機のスカウトシップ(円盤)が発射されているのが見えます。

¥1,500 送料10枚まで¥80



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270



GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80

新アダムスキー全集 訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下さいれば代金後払いでお届け致します。

申込先 上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒113 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本GAP 振替 00140-2-35912
☎03-3651-0958

日本GAP能力開発カセットテープ

★日本GAP東京本部月例セミナー

毎月開催される日本GAP東京本部月例セミナーから、久保田会長の「超能力開発法」解説講義と質疑応答その他を録音したテープ。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあがり、あらゆる障害を超えて成功に到達できます。

- テープ① ¥1500 (内容) 久保田会長による新アダムスキー全集第2巻「超能力開発法」の講義。近況報告。
- テープ② ¥1200 (内容) 会員による講演、超能力開発練習、質疑応答。
- 1994年度日本GAP総会2巻セット ¥2700 (内容) 久保田会長講演「信念と希望と絶対に諦めない力を引き出す方法と成功の秘訣」質疑応答。事務局テープのバックナンバーあり。往復ハガキでお問い合わせください。送料テープ1本 ¥190、2-3本 ¥270、4-6本 ¥390

申込先 品名、〇年〇月分、個数、氏名、住所、電話番号をご明記の上、郵便振替でご注文下さい。(テープの代金後払い不可)
〒113 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 振替 00100-2-162644

日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

- 東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000 (内容) 久保田会長の解説講義、他、約120分。
- 日本GAP総会 全2巻各¥3000 (内容) 毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)。
- 日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000 (内容) 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫あり)。
- 1992年度デザートセンター調査行 全1巻 ¥3000 (内容) 1952年11月20日、アダムスキーが金星人とコンタクトした地点その他を調査した記録。送料はビデオ1本¥390、2本以上3本まで¥700、4本以上7本までは距離に応じて変わります。

申込先 ご注文の際は品名、〇年〇月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払い不可)
〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103
伊東芳和 振替 00140-8-13811 ☎03-3351-9526

UFO contactee

129号

一九九五年四月二五日発行

発行所

日本GAP

〒133東京都江戸川区本一色1-12-1 511 電話番号0140-2-35912

定価九二七円(本体九〇〇円)

送料二四〇円